京城日報

二十日夕刊

定價 本紙 一部金一錢五厘 一ヶ月金五拾錢 一部送料前金一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢 ▲郵稅代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲特別 ▲繪入一行金壹圓 ▲場所指定一行金貳拾錢增 ▲三號活字の一行は二號活字同樣 ▲六號活字の一行は五號活字同樣の事
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通二丁目 合資會社 京城日報社
電話番號 編輯一三四番 營業一一二一番 振替貯金口座京城三〇〇番

○對支交渉結果を見ず

十八日午前十時より三時間に亙る林公使と陳外交總長代理との會見交渉に於て支那は飽く迄主權問題に關係するより承認困難なる理由を說明し公使は之に對し駁論を爲し終に結果を見ずして散會したり(北京特電)

○西班牙の媾和斡旋

交戰國駐劄西班牙外交官は交戰諸國に對し媾和斡旋の交渉中なり(紐育電報)

○希臘國內沸騰す

國王蒙塵せんとす

希臘王コンスタンチンは佛國艦隊司令長官の雅典要地占領に關する通牒を見て激怒し更に首相カロゲロパウロスと衝突してラツサに蒙塵せんとし國內沸騰形勢益々不穩なり(紐育電報)

○希臘王の態度と羅國

ブカレスト來電=希臘王コンスタンチンの曖昧なる態度が羅馬尼の利害に痛切の關係あるマセドニア方面の活動を妨げん事は羅馬尼の堪ふる能はざる所と思惟せらる(倫敦電報)

○羅軍又敵軍を擊退す

羅馬尼公報に曰く、我が軍は又トルグエスタウグ及びプレデアルに於て敵の攻擊を擊退し多大の損害を與へたり(紐育電報)

○皇后行啓仰出さる

皇后陛下には來る二十三日御茶の水女子高等師範學校に行啓あらせらるゝ旨二十日仰出さる(東京電報)

○立儲式と建築中止

東京の虎疫未だ終熄せざるより立太子式當日に充てらるべき朝集所建築は之を中止されたり(東京電報)

○內閣會議開催

廿日午前十時內閣會議を開き寺內首相以下各相出席內外政務に就き附議する所ありたり(東京電報)

○寺內首相催宴

寺內首相は二十一日午後六時半より永田町官邸に德川黑田正副議長を始め上院各派代表者を招き新任披露の晚餐會を催ほす筈(東京電報)

○代表者一行著京

寺內伯に對する謝恩使李王職長官閔丙奭氏一行は十九日夜入京精養軒に入り二十日寺內新首相と會見せり(東京電報)

○陸軍大異動期

來る十一月二十日頃を以て陸軍大異動發表さるべしと傳へらる(東京電報)

○鐵道院更迭か

後藤總裁就任の結果古川副總裁以下鐵道院幹部の更迭行はるべし(東京電報)

○本野子著京期

本野大使は十一月五日東京歸著の豫定なりしも四五日延著する事となるべし(東京電報)

○小幡氏歸京す

政務局長候補者と目せらるゝ大使館參事官小幡酉吉氏は廿日朝著京せり(東京電報)

○物價騰貴の勢

正貨流入と共に兌換膨脹し諸物價漸次騰貴の趨勢を呈せり(東京電報)

○段氏の意

段祺瑞氏は最近肥愚者に對し自分は副總統となる意志なき旨を聲明せり(北京電報)

○天長節觀兵式

十月三十一日天長節祝日當日午前九時龍山十九師團步騎砲兵は南坡練兵場に於て觀兵式を行ひ朝鮮步兵隊も參加する由なるが步兵第七十八聯隊長池內大佐之れが總指揮官を命ぜられたり

○人蔘收納好況

總督府度支部專賣課開城出張所にては過般人蔘特別耕作區內に於ける水蔘收納を了せるが本年度の採掘面積は三十四萬六千八百二十三間にして採取人蔘五十二萬八千六百七十八斤を算し其の內十六萬二千五百三十三斤を收納せるが本年は人蔘の品質頗る良好にして其の收納價額の如きも未曾有の額に上り八十四萬二千圓に達せり而して前記採掘斤數より收納斤數を控除せる卅六萬六千百四十五斤は所謂後蔘にして耕作者に還付し白蔘となすものなるが其の品質亦た良好にて其の原價は優に前年に倍從せる有樣なると一般の需要激增せるとに依り本年の價格は異常の高價を見る可しと豫想せらる、因に本年度の紅蔘製造額は三萬五千斤なるも收納の結果は相當の增加を見る可くまた白蔘は恐らく十萬斤以上に達すならむと

○定例長官會議

二十日は定例長官會議日なるより山縣政務總監以下各部長官局長所屬官署の長等は午前十時より總督府第一會議室に參集通常政務に就き協議打合せの上正午散會したり

○辭令 十九日附を以て左の通り辭令ありたり

朝鮮總督府鐵道局副參事 岡部國平
陞敍高等官四等一級俸下賜
依願免本官

○川村元帥著發

元帥子爵川村景明氏は滿洲より歸東の途二十日午前八時南大門驛著同三十分發南下したるが龍山及び南大門兩驛には立花古海兩中將限部警務部長高橋武官川江鐵道局技師外文武官民多數の送迎ありたり

○米大使入京期

駐日米國大使ガスリー氏及び同夫人は二十四日北京出發二十六日午後七時三十分南大門驛著汽車にて入京朝鮮ホテルに一泊の上二十七日午前九時十分同驛發汽車にて退京歸東の途に就く筈なり

○川上長官入京

平安北道長官川上常郎氏は二十日夜入京浦尾旅館に投宿す

○神戶開店事情

二十日より開業せる朝鮮銀行神戶出張所の新設は鮮銀が近時南北滿洲露領方面に支店を設け特產物の取扱ひを盛んに行ふ事となりし結果其の內地に於ける主要取引地たる神戶に一の支店を有せざるは爲替關係上不便の點少からず乃ち此の缺陷を補ふ爲めにて今後は內外相應じ益々業務の擴大を圖るべし尙ほ神戶出張所は其の執掌殆んど爲替事務のみにて他の銀行業務は附帶として行ふに過ぎずと

○鮮銀海外派遣員

朝鮮銀行歐米派遣員は目下全部東京に集合し居れるが孰れも近々出發する由なれど倫敦出張員は米國を經由する事となり紐育出張員と同行十一月上旬の橫濱發便船にて渡航の途に上る由

○鐵道局出張所長

淸津鐵道局出張所長は同建設事務所長勤田留次郎氏十五日附任命さる

□將に東歸の人

吉原總裁を訪うて

一記者

○將に東拓總裁を罷めて東歸の人たらむとする吉原三郎氏を、十九日の午後永樂町の社宅に訪ふ。好晴の小春日和、風なく塵起らず、日射し和らかに病餘の人を訪ふには結構の時なりき。總裁邸の內外、人の氣はひも靜かに、自から閑情の充ちたるが如く、單に記者の思ひ做しにも非ず。○玄關にて應接の家人に刺を託して今日總裁の病蓐に強いて推參せしにはあらず、御見舞申さんが爲めのみ御面晤と否とは總裁の御自由に任せ申すべし、此意を通ぜられよと言ひければ、家人奧に到り復りて言ふ、臥床の邊お構ひなくば御逢ひ致したしと。即ち導かれて居間に通る。○總裁の臥室は庭園に面せる日本間にて、床をのべ枕を二三尺も高くして臥すと云ふよりは凭りかゝる樣に設けられたるが、總裁は今しも枕頭の小机に對し籐椅子に倚りて新聞を散見せるところなりき。記者を見て徐ろに床に上り、實は歸京後起居一層に不自由となり、斯樣の生活を致せるところなりと席に招ず。割合に憔悴の樣には見わざれど、右の腕殆ど利かず、喉頭の疾患は聲拔を減じ其の微笑には秋の淋しみあり。但し例に依りて善く語り善く咲する所平生に異なるなし。○總裁の曰く。余の後任には既に石塚君の決定せるあり、余の歸鮮は京城に入ると間もなく新總裁の任命發表あるべきを豫期し來りたるなるが、併し其の發表も今明日中なるべきか。新總裁に引繼を了せば本月末晚くとも十一月初には東京へ引き上げたしと思ひ居れり。東拓重役として朝鮮に在る事茲に八歲、今や鮮地を辭するの秋に會へり。歸東の後にも鄕里千葉縣の海濱に居を卜し暫らく病軀を閑地に養はむと欲す。余の辭表は四月に提出しあれば遲くとも夏までには許さるべしと思ひ、八月には千葉に家を借り置きしに、延び〱て今に至る、思はざりき、海濱の家、避暑の爲めに用をなさず、將に避寒の處たらむとは、と記者を顧みて笑ふ。○『東拓の事業、其の改革は行ひ得べし。但だ問題は改革の結果如何に在り。人員を減じて經費を節し、能く其の後任の餘裕を作り得むや。既に整理の後に屬す。改革は單に整理にのみ存せず。但だ當路の人を更へ、人心をして新たならしむるは、以て社運向上の一途たらずとせず。○『補給金三十萬圓の復活は、依然移民事業の資に充てむとする約束の下に於てならば、必ずしも望ましき事にはあらず。朝鮮に對する內地人農業移住者の招致は、口に言ふ如く實行は容易ならず、三十萬圓の補給を以て每年一千戶を招來する事は至難の業たり。國家的事業會社とは云ひ條、株主を擁して營利的性質を有する會社にして、慈善會社たらざる限り、損を見越して仕事は出來難くして移民事業を廢むるに如かず、僅かの補給あるが爲めに補助會社の不振を攻擊されては引合ふ話でなし』○『滿蒙發展とても同斷なり。東拓は必ずや滿蒙に手を伸ばすべしとは誰れも言ふ、作併前の同志會邊りで論ぜられし如く、東拓の北進は差當り安東縣と間島邊で宜しと云ふ位の北進なら抑も何になる。左樣な事では單に形式の滿蒙發展のみ、形式的なるが故に又もや新たに攻擊の材料を供給するに過ぎず、斯かる不利不都合いかであるべけむや。一體滿蒙發展といふ其言葉は壯なるに似たり然かも其の實行は決して容易の業に非ず、短日月にして期成し得らるべき業に非ず、眞に事功の有無を判ずるには假すに永き歲月を以てせざる可らず、名を美にして實行の副はざるが如き計畫を慫慂するは不親切の沙汰なり。東拓の北進、只だ國境方面に止めんとするが如きは斷じて不可なりとせざる可らず。』○此時侍女兩人來りて濕布を求む。總裁は半身を露はして胸部に布を卷かせ乍ら『先日來呼吸苦しくどうも容態が變だと思ひ、醫師にも度々質問したれど、確たる診斷に接せず、漸やく一昨日輕微の肋膜なりと判りたり。但し餘程輕症にて左まで苦痛は感ぜず、病氣の眞相が明かなりし上は治療法も自から決する故、却つて安心なり』と。○病を抱いて京城を去らむとする人と相對して座すれば、輕く庭上の草花を動かす秋風にも、寂寥の情を誘はる。座談時を費やし總裁安臥の時を妨ぐるに忍ず、辭して去る。

○仁川新穀出廻

當分盛況を示す

仁川に於ける本年一月以降九月迄の米穀廻著數は鐵道九萬七千九百六十一叺、船舶九萬七千七百五叺にして其の廻著は兩陸相半ばしつゝ有るが此れが產地別を掲ぐれば左の如し

黃海道	沙里院	八〇、一八九	水色	二、八八六
	黃澗	九一五	定州	八三二
	郭山	五九五	海州	一、一〇四
	黃州	五一九	開城	一、〇一二
忠淸南道	天安	四、九〇七	仙掌	一、一四七
	大田	五、五八八	論山	三、〇八〇
	江景	三、四七三	鋤里	三、二三六
	鳥致院	一三三		
忠淸北道	申昌	一三〇	連山	一八九
	金川	三〇	永同	一、六九一
	全川	八三		
全羅北道	群山	五三、九六九	井邑	九三〇
	金提	八〇七		

其他鎭南浦一三、一四一平澤一、六九三七水原五、〇一三烏山一、八五七羅州六、二二木浦一、九一〇倭館一、九一二淸道一、二〇五金泉二、二二七慶山三、四二四釜山七、〇五六等の外補充米として

▲多くは精搗 したる內地玄米一三、五二七等あり之れが重なる扱店は奧田、不二、天日、力武、濱物、辻川、吉金、庄野、等の精米所及び今村殿池等各米穀業者等なり而して本期間は六七月以降定期受渡米未曾有の盛況なりしを以て廻著は例年に比し頗る多かりしが

▲廻著の徑路 は重に群山を中心として忠淸南道江景論山鋤里及び金提より海路を經て來り全羅南道產米は木浦より南滿南北產米及び慶尙南北道產海道京義道等は鐵道に依り其他は重に海路仁川に廻著する者多し此れに就き仁川檢查所員の談に依れば前記各地方よりの廻著米の大部分は定期受渡米に提供せられ精米として需要せられたるは

▲纔に三分一 に過ぎず、此れが檢查の成績は大體に於て不良を告げ夾雜物夥多破損叺重量不足叺等の爲め格落或は不合格等ありたるが要するに各道の檢查標準區々にして統一せざる結果に外ならざるを以て仁川に於ける出廻季は每年十月下旬より翌年五月頃迄繼續し十一十二兩月は新穀の出廻殷盛を極むる如し

京義線車中より

十九日夜汶山にて 西海生

▲朝鮮の十月は快晴連日一年中の最好季節に御座候、十七日釜山に南下し十八日歸京せる小生は十九日午後四時二十分南大門發の京義線列車に搭乘西行仕り候 ▲沿線水田の稻は既に七八分方刈り稜られ、其の跡にカチ島の群れを見る流石に野面に働らく鮮農の影は大に減じ候高粱の首重く垂たるは特に目に著く、天高く秋氣淸澄松山の翠色、楊柳の黃ばめる、窓外の眺め捨て難きもの有之候 ▲列車の乘客は沿線各驛より京城の中學校女學校高等小學校並に鮮人の同程度學校に通學する男女生徒殆んど半數を占め居れり、三四の女學生は每朝未明の五時五十分開城發列車に乘じ午後七時開城著の本列車にて歸家しつゝあり、其勸勉感ずべきものあり候 ▲小學生の多くは唯ガヤ〱と騒ぐのみ、然も中學生女學生は學科の復習に悉く熱心に候、彼等は宅習の時間乏しき爲め之れを車中に補はんとするもの〻如し、女學生中には腰掛に立ち物置棚より吊して袷、羽織等を切りに裁縫しつゝある者も見へ候 ▲夙起と過度の運動とは無邪氣の小學生に睡氣を催さすもの〻如く十歲位の小童は金村驛に下車すべきを眠りて通過し、跡にて他の學生に起されそれと氣付きしも既に遲く、車中父母を呼びて大聲に泣出す騷ぎ、漸く車掌になだめられ汶山驛にて下り急行列車に便乘致させ候 ▲今夜開城一泊二十日歸京の豫定に有之候

仁川

▲安藤參事來仁 鐵道局安藤參事は共益社特定運賃問題に關する仁川有志大會に臨席の爲め二十日午後一時迄來仁す ▲仁川有志大會 昨紙所報仁川有志大會は廿日午後一時より商業會議所樓上に於て開催されたるが來會者は商業會議所評議員穀物協會員其他有志等にて仲々の盛會を呈せり ▲虎疫入院患者數 仁川に於ける入院虎疫患者數は二十日現在六十九名なりと ▲中川警部歸任 仁川近海各島嶼に於ける防疫狀況視察中なりし中川警部は十九日午前歸任したり ▲防疫注射勵行 江華島其他の島嶼に於て虎疫流行したる部落民に對し二十日より豫防注射を勵行しつゝ有り

大邱

▲永川地主組合總會 慶北永川郡にては十九日午前九時より郡廳に於て第二回地主組合總會を開會す出席者十二名前組合長辭任に就き朴晚遂を組合長に曹星煥を副組合長に選擧し次で籾調製に關する注意稻刈取乾燥法其他に就て當局の注意あり十二時散會せり ▲英陽小學校設置認可 九月下旬英陽尋常小學校設置認可申請中の處十月十八日附許可ありたり ▲慶北地方費追加豫算 大正五年度慶尙北道地方費豫算追加歲入總計三十萬七千六百四十三圓歲出經常部合計十四萬千六百廿二圓同臨時部合計十六萬六千十一圓歲出總計三十萬七千六百四十三圓は十八日認可ありたり ▲慶北苗圃養成樹 慶尙北道各苗圃に培養中なる樹數は九月末現在四百七十二萬九千二百八十七本明春生產見込數は四百五十六萬二百八十五本にして其の樹種はアカマツ、クロマツ、ニセアカシヤ、ヤマハンノキ、タヌギ、クヌ、白楊樹等主なり

人事消息

▲川江秀雄氏(元山建設事務所長) 十九日入京 ▲吹田勇八氏(日韓瓦斯會社取締役) 入京中の處二十日朝退京 ▲川上常郎氏(平北道長官) 二十日夜入京浦尾に投宿の豫定 ▲白井水城氏(醫學士) 廿日退京 ▲柴崎鐵吉氏(京城中學校長) 十九日夜安東縣より歸京 ▲ケフトレル氏(京城獨領事) 十九日夜出發下關へ ▲鮫島鐵道部參與官 管內巡視中の處十九日夜歸任

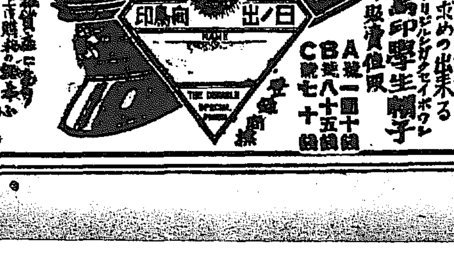
平壤

▲畜牛品評會 本月十五日平安南道中和郡中和面江老里に於て畜牛品評會開催平南道廳より篠田一部長三宅技師井川勸業主任臨場し午前九時より審查を遂げ正午十二時褒賞授與式を行ひたり當日集りたる畜牛は五十頭にして參觀者約五百名郡守及び篠田一部長祝詞を朗讀し尙ほ培養者の畜牛に對する講話ありて盛會なりし ▲商議特別委員會 平壤商業會議所に於ては曾て平壤市內商店の支拂期日一定の計畫ありこれが爲め評議員中より特別委員を選定し目下調查中なるが愈々二十四日午後一時より特別委員會を開催し平壤市內に於ける每月支拂期日及び延勘定日を決定する由なり ▲憲兵隊經理事務檢查 憲兵隊司令部三等主計正峯本辰次郎氏は十七日午後三時來壤十八日來平壤憲兵隊の經理事務を檢查し十九日午後京城に歸任せり

▲富の道しるべ 山縣五十雄 村上唯吉共著 價十五錢 郵稅二錢 京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部

山上の垂訓 スミス氏講義 (英語及び日本語) 廿一日午後七時半より 西小門培材學校にて 來聽歡迎 但し來聽の節は名刺を持參せらるゝを希望す

カタログ御申越次第進呈仕候 東京神田區富松町 西川製作所 振替口座東京三〇一七八番



實用新案 第四〇九九〇號 安心してお買求めの出來る デムカヒトリヂルシガクセイボウシ 日ノ出向島印學生帽子 全國均一の販賣價格 A號一圓十錢 B號八十五錢 C號七十錢 到る處の帽子雜貨店に有り 商標に注意の上御購求の程 製造發賣元 東京 吉安商店

小資本にて金儲け現る 新案登錄器械にて活動寫眞の興行が輕便に素人にも出來る他に比類なき金儲機械(三十二頁限り實費) 委細說明書にあり郵券二錢送れ 東京淺草八幡町 振替東京一六六八八 大澤商會

壯健なる身体を得るには今直ぐ御使用下され

製造元 三田土ゴム製造合名會社 發賣元 大阪南區 飯田商店

○好機を逸する勿れ ○舶來鎖付ナイフ 特別廉價にて販賣す 全部御買取の方には特に安價御相談に應ず 仁川本町三丁目 世昌洋行

●山中で大仕掛の紙幣僞造 憲兵變裝して捜査=犯人悉く逮捕

黄海道瓮津郡富民面上四里論の人里離れし山谷に小屋掛けをなして九月十七日頃より怪しき數名の朝鮮人が秘密に何事をかなし居れりといふ噂を海州憲兵分隊翠野埸派遣所にて探知し所員全力を擧げて探査したるも何分深山のこととて其所在を突き止め難きを以て何れも變裝し木炭買出しの商人風となり又は銃を携へて狩獵者の如く裝ひて晝夜の別なく露營して捜査の結果瓮津郡富民面上四里鄭伯三(三九)松禾郡蓮中面野村李龍永(三〇)信川郡草里面龍學洞鄭漢健(二〇)海州郡錦山面四里趙詠漢(三九)瓮津郡富民面上四里李聖化(三九)の五名にして本年二月より四月末迄海州に於て朝鮮銀行發行券一圓紙幣の僞造をなさんと共謀し掛小屋に立籠りて九月十七日より九月末迄前記李聖化方を本部として僞造用の用紙機械器具等を蒐集し大仕掛にて僞造に著手し鄭伯三は食料品用具等の補給をなし居れる内憲兵所員が一時に踏込み難なく犯人を逮捕し併せて現場より一圓券の表面を印刷したるもの四千九百八十五枚、同裏面を印刷したるもの六千三百八十枚、白紙一萬二千枚其他機器類、繪具、小道具等多數を押收して目下取調中なり

●亞鉛圍ひ十五哩に及ぶ

四日市ペスト蔓延の爲め亞鉛圍ひ十五哩に及び豫防費十二萬圓を計上し經濟界大打撃を蒙り北里博士も視察したるが既に有菌鼠三百五十餘頭發見せり(大阪特電)

●中村林學士の屍體發見

江原道林野調査の爲め金剛山方面に出張中なりし總督府技手中村孝彦氏が九龍淵附近の林野を調査中十八日午後一時誤つて眞珠潭に墜落行衛不明となりしは昨紙夕刊所報の如くなるが爾來調査班一同は道吏員、憲兵隊員等と力を戮せ極力屍體の捜索に努めし結果墜落當時より二十四時間を經たる十九日午後一時に至り漸く同潭内に於て發見したる旨同地より電報あり又た同夜總督府に達せる報告に依れば屍體は十九日午後五時溫井里に著し醫師の檢案を經て柩に納め溫陽旅館の一室に安置せるが屍體には顚頂部に幅一寸九分深さ骨膜に達する裂傷あり之れ致命傷にして墜落の際岩角に打ち附けたるものなるべく檢案後繃帶を施せりと、因に總督府にては郷里に交渉の結果火葬に附すことゝなり二十日朝溫井里に打電したるを以て同所若くは元山に於て荼毘に附し調査班一行護衛の下に不日歸京す可く京城に於て法要を營みたる上遺骨は郷里東京に送附埋葬の筈なり

故中村林學士と金剛山眞珠潭の懸崖

●雪 農作物の被害尠し

平南孟山郡地方は本月十五日朝來降雪あり農作物の中蕎麥、白菜等は特に被害夥しく二割方の減收ならんと(平壤特電)

●醉つて屋根から

京城新町居住理髮職野田國藏(二十)は十九日午後五時頃同町遊廓吾妻屋事長木某方の二階にて飲酒して酩酊したる上隣家に遊興中なる桑原捨次郎と會飲すべく屋根傳ひに隣家に行かんと窓口を飛び出したるに足を辷らして大地に墜落して人事不省に陷りたる騷ぎに居合せたる者等が集り直ちに總督府醫院に擔ぎ込み應急手當を加へし爲生命に別條なかるべしと

●養育に窮つて

京畿道利川郡戸凡面朱治里生れの李鍾段(三六)は[illegible]中幼兒を雇主なる金成五に置き去りたるより鍾段はその養育に窮し同[illegible]安城郡大德面第山里の溜池に手[illegible]一鮮童が荒繩にて逆に松の木に縛りつけられ無慘の横死を遂げ居たるを附近の者等が發見し目下犯人嚴探中

●連絡船上陸客

十九日朝釜山入港高麗丸上陸客 一等十[illegible]名[illegible]

十九日夜釜山入港新羅丸上陸客 一等(三名)平山勇次郎、富岡德之助、田中庄太郎 二等(七名)山縣[illegible]、太田まつ[illegible]

讀者文藝課題及募集規程

[illegible]

募集規程 ▲用紙は端書又は型同の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事▲賞は一[illegible]

天氣

晴れ時々曇り ▲十月二十日(二十日午後六時迄)(二十一日午後三時迄)

[illegible]

●河中で人殺し

江原道楊口郡南面佳梧作里居住の金正玉(三二)は本年舊五月頃杆城郡々内面八音里の雜貨行商人鄭錫淵(三一)より綿布七尺を一圓四錢にて買ひ書七月中六十錢を支拂ひ殘金四十四錢延滯せる爲め鄭錫淵は九月七日夕刻正玉方に到り殘金を督促せしより正玉は家人の面前にて督促さるゝを避けんため夕食後金策して支拂ふべしと穩かに猶豫を乞ひたるも鄭は五月蠅く附纒ひて詮方なきより對岸の部落に赴かんと橋梁なき西川と稱する小川を連れ立ちて徒渉中鄭は僅かなる金の爲め夜中河の中迄引き廻さるは大迷惑なりと稱しつゝ攜へたる洋杖にて金正玉を毆りたるより正玉は一時に憤怒發し手頃の石塊を拾ひ激しく鄭の面部に打つ付け同人が水中に打倒れたるを更に小石を以て顏面を擲り小刀にて頸部其他に斬付け頭蓋骨を粉碎して即死せしめ直ちに楊口憲兵分遣所に自首し出でたる一件は此程京城地方法院の公判に附せられたり

長春城攻撃戰を觀る 士氣凜烈萬一の變に備ふ

十五日夜范家屯にて 勝村特派員

南滿洲北部に於ける駐滿第十七師團の機動演習は或る意味に於て滿洲に於ける日支露三國人の多大の興味と川村元帥が特に演習觀戰の爲めわざわざ渡滿し中村關東都督、白井旅順要塞司令官福原滿洲獨立守備司令官國澤滿鐵副總裁其他在滿の主なる邦人悉く

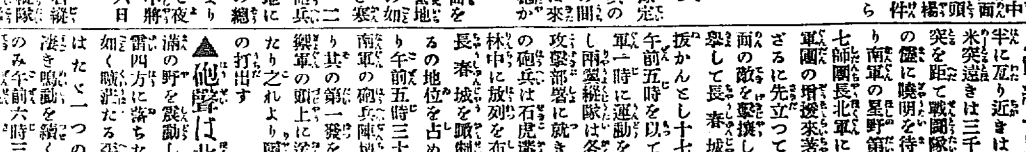
▲滿鐵北境上 に集り且つ奉天及吉林都軍府國護境軍團等より約三十名の觀戰武官を派し吉林省よりは萬一の場合を慮り商交涉使、長春に出張し來る等少からざる熱心を以て此の演習を凝視し居り又十七師團に於ては豪昧なる支那軍隊及び馬賊が何時横合より我に對し無禮又は暴擧に及ぶかは近き幾多の前例に由り計り難きもの有るを以て萬一の變に應ずる

▲覺悟と準備 とを整へ居りたり、而して演習の期間長からずと雖も其の間屢次天候激變し或は激しき雨雪を降だし或は寒風肌に沁徹し行軍縱途の上に多大の困難ありたるに拘らず演習豫定の行動は成績良好に著々進行し其の衛生狀態亦佳良にして士氣旺盛の間に愈々演習の最終日たる十七日は來りぬ、前日よりの晴天此の日も稍かにして冬に入る前の

▲平靜なる趣 きは野の面を蔽ひたり、午前四時孟家屯の宿營地を出て第一線に向ふ、霜は薄雪の如く深く置きて微風だも動かざれど寒氣ヒシヒシと身に沁む孤楡樹屯、二十五里堡等に露營したる南軍の砲兵隊は馬に飲ましめて將に其の陣地に就かんとし、其の前方なる步兵の總豫備隊亦前進を起したり、此れより先、南北兩軍が戰鬪隊形を持して夜を徹したる狀況を記さんに星野中將の指揮する南軍第十七師團は十六日午後孟家屯附近の

▲敵を擊攘し 十六日夜右縱隊を以て鐵道以西なる十里堡、水平溝大房身の線に進出し敵の逆襲を警戒しつゝ夜を徹したり北軍に在りては孟家屯の高地を棄てたる以來漸次敵の壓迫を受け十六日夕刻に至り其位を以て五里堡頭道溝の線に至り退いて稍々堅固なる陣地を構成し以て味方の大軍團の來著を待つ兩軍の

▲戰線一里 半に亘り近きは千米突遠きは三千米突を距て戰鬪隊形の儘に曉明を待てり南軍の星野第十七師團長は北軍に大軍團の増援來著せざるに先立つて前面の敵を擊攘し一擧して長春城を抜かんとし十七日午前五時を以て全軍一時に運動を起し兩翼縱隊は各其攻擊部署に就き其の砲兵は石虎溝森林中に放列を布き長春城を瞰制する地位を占めたり午前五時三十分南軍の砲兵陣地より其の第一發を放ち之れより兩軍の頭上に迄り南軍の打出す


南軍の突撃

▲砲聲は北 滿の野を震動し百雷四方に落ちたる如く騷然たる平原はたゞ一つの物凄き鳴動を續くるのみ午前六時三十分南軍の第一線は敵の前線を距る約六百米突の地點迄肉薄し右翼の秋月聯隊は敵の備へ最も薄き頭道溝方面より鐵道東方[illegible]南軍の

▲中空に吹き 揚げ天日爲めに暗く光景壯觀を極む茲に於て南軍の士氣大いに振ひ左翼隊の秋月聯隊は先づ敵前四百米突より突擊に移り續いて中央軍左翼軍等全線に亙つて一齊に突擊す其の雄烈を極む此の時南軍の一部は怒濤の打寄する如く[illegible]

▲包圍の隊形 を取り右翼なる神戸聯隊は五里堡方面に對して其の側面背に迫り恰も半月形の攻擊部署を成せり然るに北軍は堅固なる陣地に據り其の前面には鐵條網、鹿柴等隙もなく且地雷火を敷設して濠に據りて死守して動かず之れに對し南軍は野砲重砲の十字火を注ぎて步兵の進擊を援助すれども攻擊の進捗を見るに至らず午前七時南軍の砲兵は其の

▲陣地を轉換 して八里堡附近に進出し更に猛烈なる射擊を續行す此の時大房身附近より南軍の工兵隊は武裝を解き捨て決死隊を組織し支那人墓地の間を腹這ひて敵の散兵濠の前面に於て其の副防禦を破壞し又は之れを爆發せんとす此の壯烈なる工兵隊の作用は成効し午前七時五十分頭道溝南方に於て二回の地雷火は轟然たる大音響と共に濛々たる黑煙と土石を

▲前線に逆襲 し茲に凄慘なる白兵戰を演出し兩軍勝敗未だ決せずして演習中止の喇叭起り茲に無事機動演習を終了し全軍の士氣勃々として北滿の天地を覆ふ(勝村特派員)

●大虎と鬪ひ打殺す 一名は遂に喰ひ殺さる=谷城山中の椿事

十九日全北任實居住木挽職中前光四郎田淵太四郎の二人は全南谷城の山中にて銃獵中猛虎に出會し中前は虎と格鬪死亡し田淵は虎を打殺したるが此の虎は先般來數名を喰ひ殺したるものにて此の地方の人民はいづれも安堵せり(光州特電)

●天長節祝日と學校

毎年十月三十一日の天長節祝日當日は各學校に於て奉祝の式を行ひたる上更に旗行列を催すを例とせるも本年は惡疫流行の際なるを以て旗行列等は行はざることゝなりたり

●龍三千個

釜山南濱町一丁目新家松三郎(四三)と云ふ龍製造者宅へ此程東京京橋區本八丁堀合資會社石田商店石田甚亮(四〇)と自稱する男入り來り一個五錢五厘の割合にて龍三千個を注文し現品と引換に現金三十二圓を新家に渡し更に殘金百三十三圓に對して額面百六十五圓と記入せる約束手形を交附して立去りしが後にて能々取調べたるに右は僞造手形にて何等效力なきものと知れたるより新家は大に立腹し石田を搜索せしも逃走後にて手の附け樣なき儘遂に新家は石田を相手取り十九日詐欺の告訴を其筋に提起せり

●石炭を喰ふ

石川縣生れ當時龍山漢江通り居住石炭商大谷吉太郎(三八)は監獄看守上りなるが本月三日より五日に亘り江原道廳警務部裁判所慈惠醫院其他數箇所にストーヴ用石炭を納入するに當り道廳に於て立會員に贈賄せむとして跳ね付けられし事忽ち刑事の耳に入り取調べの末各官衙に納付せし石炭が定量より何れも五百貫乃至千貫の數量不足し居ること檢量により判明したるを以て其筋より代金支拂の差止めを通報を發して本人を龍山より呼出せ十六日春川警察署に留置され目下嚴重取調中なるが何所も不正手段を講じて現品の重量を胡魔化したるものなりと(春川)

コレラ彙報

▲新患者十三名 全羅南道靈光郡鹽山面トドッ里鮮人より發病し鮮人十三名疑似虎列拉に罹り六名死亡せり

▲全道發生累計 十九日午後六時現在全道に於ける虎疫拉患者は發生以來の累計一千二百四十二名に達し内内地人二百十名朝鮮人一千三十一名外國人一名なりと

●獨立すべき軍用自動車隊

經費十五萬圓の增加=大隊編制=班隊建設地は目下調査中=大演習と傳令=米國から特殊自動車購入

陸軍々用自動車試驗班は信濃町の輜重兵大隊に同居して毎年十五萬圓宛の經費で研究して居たが來年度から更に十五萬圓を增加して自動車班隊と稱し獨立することになるとの事である兎に角獨立するに至れば車庫の

▲格納庫を增設 をしたり運轉の練習等をするので營庭は手狹である殊に歐洲戰爭に徵して快速の自動車並に特殊自動車即ち騎兵の先頭に立ち敵陣を突破する裝甲自動車も設備されるであらう而して彼の氣球隊が航空大隊の前身であつた如く自動車班隊は將來に於ける完全な自動車隊の基礎になるものである同隊の編制は(中隊編制にするか大隊編制にするか、又大隊編制とする時は幾十輛の自動車を)以て附屬せしむるかに就ては當局者間に種々の說がある、元來戰時に於ける輜重は一箇師團の一日分に要する糧食を一日に運搬する能力を有して居ないと其用をなさない、之れから推して大隊編制とし一大隊に六噸位の積載力ある快速の自動車を少くとも四十輛は活動させねばならぬ。又一說に依ると快速であるが故に一日二回の往復をするものとして四十輛の半數二十輛で足れりと主張する者もあつて附屬する車輛數は未だ協定中であるが編制は多分大隊編制となるであらうとのことである

▲班隊建設地は 內々調査中であるが東京市內は地價が高く買收費に經費の大半は取られるから市外と云つても修繕などの必要もあるので工場のない所には又不便な點もあり地所の選定は困難である殊に今回獨立大隊の計畫は一方自動車の研究と又一方には自動車に對する教育を行つて行くのであるから建築物は小にしても營庭は最廣大を要するから如何しても市外の廣い場所を選ぶ譯である然し

一時に多數の自動車が聯繫運動をする樣なことは殆ど無くあつても

足らないから運搬練習には長い距離の道路即ち那須に行くとか仙臺に行軍するとかするのである其結果に依つては漸次年を追うて擴張し大阪名古屋小倉等の比較的道路橋梁の廣く且つ堅牢で自動車の疾驅に堪ふる師團管下に設立することになるであらう何れも軍用自動車として三十五馬力以上に限るので自動車大隊が一度び活動するに至らば頗る壯觀なものであらう、現に歐洲戰爭では

▲汽車以上便利 なものとなつて居るのが又特殊自動車即ち裝甲機關砲は速射砲を裝置した裝甲自動車の有利なことは爭はれぬものとなつたので陸軍では之れまで運搬用自動車と同時に調査を遂げ運轉試驗を行つて居る今回の陸軍大演習にも傳令用として數輛を試用する筈で既に福岡方面に向つて輸送準備をして居るが前進後進同速力のものが戰術上必要であるので參考の爲め今回米國から三十五馬力の特殊自動車を購入したが製作に著手野戰に使用し得る裝甲研究の結果良好なるものとなれば之を戰時自動車として武裝を施すとのことである(東京)

良妻賢母

●女子の本分

▲料理と作法を心得ねば女一生の損

▲嫁入りに五荷の仕度にも勝る貴くして—

重寶なるは板垣伯夫人會長大隈侯楠木男顧問の東京割烹講習會發行家庭料理及び禮法の講義錄なり

▲料理の秘傳と作法の奥義 秘傳と奥義は夫れ〲料理の家元や禮法家の家傳にして從來なかなか之を傳授せざりしが同會は家庭料理及び家庭の改善を主眼として立てるものなれば如何なる秘傳奥義もとしく講義錄に掲載公開されたれば志ある人は此機會を逸せず早く急ぎ入會して之等を會得せらるべし左に其內容を說明して本紙愛讀者に勸む

▲禮儀作法と家政 禮儀作法心得の有無は人の品位に關するものなり然るに人々日常行ひ居る事の中に判らずに行つて居る事間違た事半信半疑の事多々あれば其を一々に匿き實用的說明をなせり例せば▲各場合贈答の心得▲日常の禮▲座り方、立ち方、步み方▲媒酌の心得▲婚禮の心得▲西洋食卓法▲日本食作法▲忌服喪儀心得其他を圖入りにて說明し家政に於ては一家の內政を掌る人の是非心得べき事を詳細說明せり

▲年中行事と料理 ▲お正月▲門松正月飾り▲婚禮▲菊見▲七五三▲歲暮▲大祓▲年越等の年中行事より▲婚禮式▲出產▲誕生▲還曆▲古稀▲喜の字等の人一代の行事を故事傳說を參照して其由來及び心得を說明して各場合の料理を講述す

▲日本料理 ▲一般家庭向惣菜料理を主とし▲即席料理▲安價料理▲晩酌料理▲野菜料理▲老人、小兒、病人の食物▲松茸栗飯の炊き方より▲會席料理▲本膳料理▲各種儀式料理等を說明す

▲西洋料理 一品料理▲日本人向料理▲各國の料理▲家庭用輕便食▲パン製法▲コーヒ及び紅茶の入れ方▲西洋人日常の食事其他澤山あり。

▲支那料理 支那料理は世界各國の料理法中最も進歩せる滋養に富めるものなれば每號十數種を講述す

▲和洋菓子製法 家庭の娛樂と實用を兼ねたる高尚なる和洋兩樣の菓子の製法を說明す。

▲漬物の漬方 漬物は日々の食事の必要品にして一見平易なるが如くして鹽の加減に至りては六ケ敷ものなり其の上手下手材料の撰擇等は一家經濟に關するものなれば心得べき事なり。

以上の各課目總て同會附屬帝國女子割烹學校と禮節研究會とにて斯道の大家の研究教授せるものなれば假名さへ讀めれば誰れにも判る樣親切に編述せる實用的通信講義錄にして實際よく判る故に今日迄に男女十有餘萬人の卒業者を出せり。

▲今回新學期を開始 全國に向つて男女會員募集中なるが會費は一ヶ月僅かに金卅五錢三ヶ月一圓六ヶ月一圓九十五錢一ヶ年三圓六十錢にて半年一年の各卒業證附さるゝ一年卒業なり而かも

美麗なる講義錄は後に纏めれば立派なる藏書となり一生の相談相手となるべし

▲入會手續きは 極めて簡便にて「入會申込」と書き會費を送れば直ちに會員として送本し會費は後に其地の郵便局より集金に行く故送金の手數もなし目下新學期開始中故入會の絶好機會にして

▲五大特典 入會金免除、料理必携進呈、六月前納者に家庭寶典進呈、一年前納者に婦女通鑑、紀念メダル進呈等ありて入會者の利益此上もなし何れも

▲內容見本と規則書 を一見したき人には申込次第無代進呈しつゝあれば遠慮なく申込まるべし

東京本郷元町一ノ三 東京割烹講習會へ申込

(振替口座東京一九四一〇電話下谷五六九二なり)

◆大阪市民の誇
懐徳堂の復興

▲大阪博物場内に新築落成最近開堂式を擧げたる懐徳堂は大阪史の上に深き由緒を有するものなり本講堂間口九間奥行十二間玄關破風造り軒瓦は舊堂に倣ひて學の字を現はせり堂内上段に故師儒を祭り其下を講堂とし小講堂二室大講堂一室隔ての板戸を外せば五百の聽者を容るゝに足る▲宗内講壇の上には三宅石庵先生懐徳堂の三大字額商東の壁には中井甃庵先生時代の壁書を其の儘左右には竹山先生の筆『力學以修己、立言以治人』の聯掛けあり北方の壁には履軒先生の横字額を揭げ合議室楣間には竹山先生の雄渾なる『青出藍而青于藍』の七大字を仰ぎ見るべし

▲そも此の懐徳堂といふは徳川の中世藩學は盛んなるも我大阪に私學民學の教化設備なきを憂ひ中井甃庵を中心に道明寺屋吉左衛門鴻池屋又四郎等五人の町人發企し尼崎町一丁目今の今橋三丁目に大阪學問所と命名して町人の自由講座を開き三宅石庵並河誠所井上赤水五井蘭州等講學を司り書物持參せねも聽聞隨意要事小便退出勝手と云ふ定書を揭げて天下の觀聽を集めたるは實に享保十一年十月十五日にてこれ懐徳堂の起りなりとす

▲其後寶曆十二年蘭州死し學風漸く弛むに至りしも天明二年中井竹山學主となるや禊祀再び張り寛政四年火災に罹り竹山拮据經營幕府の助力を得て再建し爾來盛大を極めしも天保以後又振はず中井桐園並河寒泉等講學たりしも次第に衰頽し明治二年全く廢絶するに至れり

▲これが三度開堂さるゝに至れる起は明治四十三年住友、藤田、鴻池の三男土居、小山、永田、鈴木氏等發企し懐徳堂先師を祀んと江湖に諮て金を蒐め遺著十冊を刊行し四十四年盛大なる祭典を營しに始まり次で記念講堂再築の議起り一萬七千餘圓を醵金して當春大阪博物館内三百六十一坪の地に工を起したるもの實に當初の開堂より二百年に近き歴史を有す

▲而して懐徳堂記念會の事業として經學の講義文學哲學公開講座の二にて近く開講を見るべく町人講座の再講は大阪市民の福音にして又誇りなり懐徳堂復興に就ては深き感謝なかるべからず（大阪にて寄稿生）

●足を挫いたら

◇何うすれば好いか◇小兒の負傷と手當◇

よく小學校などで生徒が足を挫折したり腕の關節を脱したりすることがあります、怎麼時には什麼應急手當をすればよいかと申ますとなるべく◇速かに専門のお醫者◇に診せるがよろしい さもなくては挫折、脫臼の患部と肉をもち化膿し、後の手當てに非常な困難を感じます 現に先日も某小學校の男生徒が左足の踵骨を挫いてその儘無茶苦茶に揉んで貰つたところだん〳〵患部が腫れあがつて餘程困難したやうですしかし怎麼時にはお醫者さんは素よりですが柔道の道場がある土地ならば其の指南者に依賴するが最もよろしい道場では足を挫いたり腕を折つたりすることは度々のことでありますが不思議にも◇即時に應急手當を◇致しますから全快も速いのであります、殊に筋の痛みたどは子供には氣附かずに居るものが多いのでありますから故障があつた時には直ちに揉ませるがよいと思ひます私はこれまで度々經驗を有つて居りますが良い先生であつたら柔道の道場に馳け付けるが一番だと思ひます（某婦人談）

耳の要心

◇春秋の季節には ◇腫瘍が出來易い

春秋の季節には耳の内へ急に腫瘍の出來るやうな事が度々あります殊に婦人にそれが多いのです此腫瘍は非常に痛いもので頭から眼や齒の邊りまでも響いて殆んど顔の半分が痛みこれが爲めに氣が遠くなる人もあると云ふ位で◇大抵の人は夜になると痛みが增して安眠が出來ないそれ許りでなくこれから延いて腦膜炎症狀を起して死亡した例もあるのですからなか〳〵馬鹿には出來ません、斯うした癌腫の出來た場合は素人療治をさけて一刻も早く専門醫の治療を受けるのが肝要ですけれど痛い目を見ないやう家庭に於ける其◇豫防上の心得を述べて見ませう耳の内の腫物も外の腫物と同じやうに膿をこしらへる黴菌が皮膚から侵入して出來るものですから耳の内の皮膚を傷つけぬやう不潔物を入れぬやうにする事が何よりも大切なことであります、處がよく人は平常耳垢を取る爲に耳掻や束髮用のピン、小楊子又はマッチの棒等を利用して◇然も唾液をつけて耳垢をかき出して居ます、あれは卽ち耳の内を傷け其處へ唾液の中に居る無數の黴菌を塗りつけるわけになり豫防處ではなく却て腫物を製造して居るのです、耳の腫物が男子よりも女子に多いと云ふのは女子がカンザシやピンで耳垢をかき出す爲めです、又スポイトで洗ふのもよくありません、若し◇耳の中が痒い時は薄いアルコール又はブランデー、香水などを綿にまいた細い棒の先につけて靜かに塗るがよろしい忘れても耳掻きやピン等の堅いものを用ゐぬやうにしなければなりませんそれからヨード劑やブローム劑などを長く服用すると斯うした癌腫の出來る事もありますから春と秋には成るべくなら用ゐぬやうにするがよう御座います。

―△會のいろ〳〵▽―

●渡邊文太郎氏逝く 朝鮮雜誌社事務主任として長く同社に在勤せし渡邊文太郎氏は腸チブスにて小林醫院へ入院治療中の處終に二十日午前三時死去二十一日午後四時護國寺に於て葬儀執行の筈尚同氏二子も同病にて入院中なり

●仁川圍碁大會 二十一、二日二日に亘つて原恭伯の移轉を祝する爲め同好者相集り仁川濱町元開港倶樂部跡に於て圍碁大會を開催する由會費金一圓にて飛入勝手なりと 御優勝者十人に賞品を擧する由

●忘機吟社例會 忘機吟社例會は來る二十二日午後一時より大和町三丁目曹谿寺に於て催す由

●善隣商業運動會 同校にては時節柄例年の如き大會を中止し廿一日（土曜日）午前九時より同校々庭に於て競技を行ふ由なるが番組は第一回より第三十五回に亘り各種の運動ありと

●平壌高女運動會 公立平壌高等女學校に於ては廿二日校内運動場に於て秋期運動會を催す由にて在壌の教育關係者及び父兄に案内狀を發したり

●忽谷師講演會 平壌實業青年會は本月廿日午後七時より軍人會館舞場に於て忽谷快天師を招聘し講演會を催すべし

●平壌有志の謠會 平壌有志より成れる觀世流謠曲會は本月廿二日午前九時より壽町大梁亭に於て秋季謠會を催す由十九日案内狀を發せり當日は夫人連の出演多しと

神社とお寺と教會

○東本願寺（南山町）二十一日午後七時半より土曜說話あり

○開教院（本町三）二十日午後一時より鮮人教會の執行猶は二十一日より二十五日まで每日午後二時より十夜法要を執行の筈

○培材學堂（西小門通貞洞）廿一日午後七時半より日本メソヂスト教會朝鮮部長エフ、エイチ、スヨス氏の『山上の垂訓』の講義あり來聽隨意

○高野山月並說教 新町高野山に於ては二十日午後八時より詠歌講に善男善女御詠歌ありて主任金武布教師法話、二十一日は月並御影供にして午後二時より法會說教あるよし

○本能寺（水標橋通） 廿二日午後二時夜間八時定期布教にて加藤講師の法華經講義及び『朝高教化』の說教ある筈

○仁川メソヂスト教會 日曜學校朝九時より禮拜說教朝十時より題『渡邊の羊』前田牧師傳道說教夜八時より題『餘裕ある生活』前田牧師

◆かつをすりながし 鰹の身をたゝきてすり鉢に入れよくすりつぶし赤味噌と白味噌とを通の味噌汁に仕立てさましたるものを少しづゝすりまぜてどろ〳〵にのばし鍋に入れて煮立てゝかたまりの出來たる處にて椀につぎ込み粉山椒をふりて出す

商況

東京株式特電

銘柄	前場寄付	大引
日本郵船	|	|
[illegible]	|	|
[illegible]	|	|
[illegible]	|	|
[illegible]	|	|
[illegible]	|	|
東株	|	|
東新第一	|	|
東新第二	|	|

東京債券現物特電

日川米値段（前日との比較）

銘柄	値段
[illegible]	|
[illegible]	|
[illegible]	|
[illegible]	|
[illegible]	|

東京公債直取引特電

日田値段（前日との比較）

銘柄	値段
五分利特別	九八、一〇
五分利	八三、〇〇〇
四分利	八二、一〇〇
四分利（二回）	九八、〇〇〇
五分利（一回）	九八、一〇〇

深川在米特電

十九日現在高

銘柄	値段
鮮米	一五、七一〇
湯米	九一、八一〇
池米	一七、〇八〇

東京期米特電

十九日前場

限月	寄付	後場
十二月限	一五、一三	|
[illegible]	一五、一八	|
[illegible]	一五、一九	|
[illegible]	一五、〇八	|

大阪株式特電

十九日

銘柄	前場	後場
宇治川水	[illegible]	|
神戸電鐵	[illegible]	|
京阪電鐵	[illegible]	|
南海鐵道	[illegible]	|
大阪電燈	[illegible]	|
和泉紡績	[illegible]	|
同新株	[illegible]	|
岸和田紡	[illegible]	|
東洋紡	[illegible]	|
大阪商船	[illegible]	|
日本郵船	[illegible]	|
大阪米穀	[illegible]	|
東株新株	[illegible]	|
大阪株式	[illegible]	|

大阪三品特電

十九日後場

限月	寄付	引
十月限	六七、五〇〇	六七、六〇〇
十一月限	六七、三〇〇	六七、五〇〇
十二月限	六七、七〇〇	六七、五〇〇
一月限	六七、八〇〇	六七、五〇〇
二月限	六七、七〇〇	六七、五〇〇
三月限	六七、六〇〇	六七、五〇〇

大阪期米特電

二十日前場

限月	寄付	
當限	一四、七二	|
中限	一五、〇五	|
先限	一五、三五	|

め止

下關期米特電

二十日前場 時勢鈍と餘入不足の買あるも値頃實に一息

限月	寄付	
當限	|	[illegible]
中限	|	一四、三五
先限	|	[illegible]

雜報

●粗布更に高値 大阪綿布相場は龍シーの六圓二十錢を唱へ綿糸現物は十八日の二圓高に次で翌日一圓五十錢高を報じ形勢愈强健にして此鼻更に狂奔相場を現出せんかの勢を示すに至れると同事に内地相場に比し割安を叫ける粗布の如きは此處又々彼我の値開きを擴大せしめ遂に現狀を維持すべからざるに至り十九日共結果三エー票は建値百六十五圓の新高値となりたるが昨今既に龍シー六圓五十錢の出現說あり百七十圓よりは示現の早かるべき接模なれば技許本品相場も眼先尚ほ漸騰を續くるや測り難し

●細布値上げ 細布は技許市況は一變せざるも粗布の値上げに連れ同日十錢方を引上げ一の八圓三十五錢を唱ふるに至れり

●糸類は漸進 十九日

●三圓五十錢の下位 米棉一圓七十錢高を報じ同日の富士十六手百五十七圓を殆らせ從て越許系價も夫々値上げを喚び爲めに角五十六手は八十一圓十手七十六圓となりたるが尚ほ現下の大阪相場よりすれば三圓五十錢の下位にあり斯る手の如きは昨今機械向に消費せらるゝもの頗ぶる多くして新期移入困難の場合越許在品は非常に拂底を告げ居れるも現下需要の閑散なる丈格安の傾きあり因に十九日大阪系相場中シルケットは十圓撚糸五圓高とあり

●牛皮更に不勢 牛皮は例の軍靴注文行惱みに前途悲觀の傾きなる折柄大阪に於ける斯界の狀態明らかならざる爲め人氣の惡化は避け難き處にして相場も其後更に安模樣を呈し居れるが鮮商側に於ては今後相場の鎮靜しあるを期待せる一面には當地貿易筋中には自然持品の關係より皮價の維持策ともいふべき小口物に對し今尚相當の價段を以つて買進める向もありて人氣の割に相場は下遊ぶり居れる據合あり昨今への唱へは正味六十九圓處にして前報より一圓安高値より七八圓安の見當なり

●澱粉は產地强健 昨今の澱粉界は猛猪の突進的勢にて邪遊まで亦騰を持續するや測り難きものあり昨今の產地は輸出筋及び思惑手口の買集等にて仲買人の東奔西走する狀態機るが如く一商談毎に新高値を以て取組れ最近檢一等七圓五六十錢處にて約九百噸の大手合せ行はれたりといふ尚ほバラは七圓六七十錢迄取組まれ步調漸々强健にして近かく八圓臺の相場を見るに至るべしと

●燐寸益强し 燐寸は益々强氣配にて黄燐は新期高値物弗々移入あり安全又輸出の好況に高根を離らせるも本品は前日在來の持越品もあり旁强氣配の裡にも黄燐の如くならず相場同値の二十七圓見當を唱へられつゝあり

下關相場

▲朝鮮白米は變らず 其後四百四叺の廻著ありしのみならず追々新物の出廻り增加を氣構へ乘角買氣の進まざる爲め市況引立たず然れども其後内地期正米の强硬なるに連れ各米主の賣り急がざるに依り格別人氣變らずとれか弗々の出來値は左の通なり▲小豆は依然手堅し 其後北海產三百俵満州紅小豆百十三袋等の廻著ありて別に買進む相人現はれずと雖も何分下地品薄の折柄產地も兎角安からぬに連れ各手持筋の强腰さに依り相變らず市況手堅し

品名	値段
△朝鮮一等白米當用	十五圓五十錢
△同	十五圓六十七錢
△沃川大豆	十圓
△同	十圓
△優館大豆	九圓八十錢
△同	九圓八十五錢
△太田大豆	十圓

▲肥料の現況 魚肥は前報後朝鮮粕同鯟干が百四十五本朝鮮四ツ手干が七十九本同海老粗五十本維粕五十本等の輸入に過ぎざるのみならず歷々報道する如く元來賣り物薄の折柄產地も依然安からぬと肝賢の米價も更に弛まざる旁各荷主の売腰强きに依り相變らず人氣强硬を極め居れり然れども別段高直を厭はず買進む相人も又現はれざる爲め別段賣れ行き歩々しからずして市況沮盪を見るに至らず朝鮮鯟干が八十本許りは並上品として二圓九十錢乃至三圓處に鯟粕の並上品五十本口は四圓七十錢等に手合せ行はれ其他弗々の出來値は別項の如し而して其他の肥料も別段市況狂はざるものゝ如し

京城正米

賣物は左して少なからざるも鮮白は安値より約五十丁内外なり戻し引續き氣丈の成行きを示し居れば正米も依然强含みに持合居れり新米も京釜線は尚は中白の出廻り多く玄米として目下の地廻り米に比し步止まり惡しく自然値段の引合ひ難き點ありてもまり米筋は此處川下物のみに目を注ぎつゝありけれ昨今餘り他所取引出來せず

南大門の廻穀

品名	數量
平澤大麥	一七八叺
裡里玄米	二八四叺
裡里玄米	二八四叺
裡里玄米	三三八叺
軍浦雜穀	一六叺
全義荏子	二七叺
平澤白米	五七叺
平澤白米	二五叺
全義白米	二六叺
鳥致院白米	三一叺
平澤白米	二七叺

仁川現物市場

▲粉入津四五百俵 氣配盤清道新粉五圓三四十錢等にて商入氣

▲正米入津なし 二唱へ居れり

▲正米入津なし 氣配は精米筋の買

▲大豆入津なし 商人氣を唱へ居れり

▲小麥入津なし

釜山穀物市場 十九日

▲正米（保合） 大阪定期米は買聯合成立の噂さあり且つ秋日和不順の爲め鎌入れ不足を唱へ買氣旺盛の爲め飛なる暴騰を示し本日寄付先十五圓五十錢の新高値を現はせしも當場には何たる影響これなく一般人氣立ちたるは依然として精米筋の買して高きは決して買ひ進まず又持米筋も別段賣り急らず成行き不待する事とて銀配は保合の狀態なり ▲大豆 別段變動もなく依然保合同事にて買入は耐遊にある商狀なり

品名	數量
新中玄米	一六三七個
玄米	三一個
大豆	一四八七個
大豆	二八個

有川米豆取引所仲買店 仁川海岸町三丁目 三色仲買店 電話三二三一 振替口座京城四〇二

仁川期米

▲二十日前場 兵庫前寄十五

大阪天候曇天

一圓二十一錢と前寄十五圓三十五錢と昨止より五錢安の入電一節同事移りに

▲十九錢と安移り 大阪八節一と一錢安に寄付値に七十九錢と押したるも買物多くずり〳〵八十六錢と引締めたるも戻りは又賣物多く一錢返したる折柄と押し四錢と押し二錢さ返して稍下げ溢りの場面と化して散會

▲下げ澁ぶる 天候晴大阪の小安き入電にて十一圓八十二錢さし寄付其後七十九錢と押したるも一俵は其後の入津潮らざるたると正米高を傳へて買物多く⊙より目立ちたるも買物現はれたると⊜⊚⊞⊡其他より買向ひたるも八十六錢と返し一錢と押し四錢と返したるが大阪の跡安を受けて一錢と押し二錢と散會を告げたり市況は昨不勢の機先前一段の下押しを豫期したるに正米の好況に稍堅調を示し面目一變說も今後の成行如何に重なる商内に賓る

▲前場の手振

市場零聞

▲二十日前場 ⊖十二圓四十五錢出來高二百石 ⊜十二圓四十五錢 ⊝十二圓四十四錢 ⊞四十三錢用 八中限⊝十一圓八十二錢 ⊜一錢二錢三錢四錢八十錢七十錢 九錢五錢⊝八十一錢二錢三錢四錢五錢六錢四錢 八先限⊝十一圓八十四錢五錢三錢二錢一錢 ⊜八十四錢三錢二錢一錢⊝八十四錢

確實 仁川海岸町 取引所仲買人

迅速（定期米賣買案內 御報次第送呈） 電話一六五番 六三二番

▲⑪能く賣る 方⑪四千餘石⊝⊕各三千二千餘石へ⊜各千餘石等に對し買方④六千餘石⊝⊜⑪各二千餘石へ⊜公各千餘石等にて他は小口商内である 今前場同店より賣りたる玉數四千餘石に上りたりとの事一面二千餘石の買ありたるも市場の注目を惹いたり

▲ⓣ能く賣る 前場同店より

▲⑦能く買ふ 賣りたる玉數三千餘石に上り一面二千餘石の買ありたりとの事 前場同店より

仁川米豆取引所

二十日の十一月限

前場	値段
寄付	十一圓八十二錢
止め	十一圓八十二錢
高値	十一圓八十六錢
安値	十一圓七十九錢
出來高	一萬九千五百石

平均値段	値段
一節	十一圓八十三錢
二節	十一圓八十五錢
三節	十一圓八十三錢
四節	十一圓八十四錢
五節	十一圓八十二錢

賣買取組高

限月	賣買取組高	前日と比較
十月限	六千七百石	二百石
十一月限	六萬三千七百石	一千石安
十二月限	七萬三千六百石	八百石安
十八日後場		四百石安

一一、九四	
一一、八三	
一一、九三	
一一、八四	

乾物小賣相場

品名	値段	品名	値段
イリコ	一五〇匁	チサクラ	二〇〇
ダシコブ	一五〇	チサワラ	八〇
カチアシ	八五〇	アシジチ	一三〇
チリメンザコ	三〇〇	ゴマメ	一三五
カヅノコ	二〇〇	スルメ	八〇
ニシンカズ	一三〇	イタコンブ	七〇
ホシタラ	一三〇	アチコンブ	一二五
サヨリ	一八〇	キリゴンブ	八〇
ホシコイカ	二五〇	シロイタ	一〇〇
マテガイ	三〇〇	トロロ	二〇
ホシマダイ	三〇〇	チホロ	三〇
ホシカレイ	三五〇	タラノコ	五〇
メンタイコ	一八〇		

靑物小賣相場

品名	値段	品名	値段
コイモ	二五	シンキク	一三
ニンジン	三五	ミツバ	〇
ダイコン	三五	カイワリ	一五
ゴボウ	二五	マツタケ	〇
チギ	二〇	ウド	五〇
タマチギ	七〇	クワイ	二〇
カブ	四〇	ワケギ	一〇
アカメイモ	三五	サヤマメ	五〇
サツマイモ	二〇	ミヅナ	一〇
ナガイモ	一〇	シヤクシナ	〇
ツクイモ	二〇	ナツバ	四
ツテイモ	二五	ナス	一五
ホウレンソウ	五〇	キウリ	二〇
ハクサイ	三五		六〇

小賣白米

現金賣 一等白米 十六錢 / 次白 十五錢五厘

營業品目

肥料部 蒸製骨粉、乾血、蹄角粉、星印配合肥料、細工用地骨 細工用蹄角各種膠及膠原料

石鹼部 化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼 牛脂、椰子油、鯨油、其他 油脂類、苛性曹達、洗曹達

京城東大門外紅葉町 朝鮮肥料製造所 電話二六三五番

京城岡崎町一四番地 朝日石鹼製造所 電話二五六四番 圖電話九七三番 振替口座京城四〇〇番

麻疾外用 リタナール

本劑は副睾丸炎の劇作用を誘起する淋菌を廿四時間内に完全に撲滅せしむることなくして

急性、慢性麻疾、攝護腺炎、膀胱炎、子宮内膜炎、副睾丸炎、膣炎に賞用す（說明書贈呈）

定價 金參圓 外に郵送料

販賣部 東京市麹町區有楽町一ノ四 合資會社 宮永研究所出張店（振替口座東京三三六七二番）

資本金 貳千百五拾萬圓 積立金 九百六拾五萬圓

株式會社第一銀行京城支店 京城本町二丁目（振替貯金京城一二番）

頭取 佐々木勇之助

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候 内地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

清水式精米麥機

●精米機の撰擇 新米取入れ、酒造期近し 成績優良なるが爲め既に白米商に絶對の信用あり

酒造界に於ても櫻正宗釀造元山邑氏を始め全國有名の酒造家が盛んに使用せるに徵し本機の優良なる明かなり

東宮殿下御需納品 御即位式主基齋田米精白 金銀牌十數個受領

製造發賣元 東京市神田區五軒町三番地 合資會社 清水商會 電話下谷三七三四番 振替口座二〇七〇番

大日本檢温器製作發賣元 專賣特許山田式兼用吸入器 醫療器械商 山田六松京城出張所 主任 窪田廉 京城永樂町二丁目武拾四番地 電話一八一九番 振替京城四〇一三番

比較は最良の撰擇法なり!! サクラ正宗 サクラ正宗

京城明治町二丁目 山邑京城支店 電話 八一四番 四五五番 九四九番 振替京城五七番

內科 小兒科 京城日出小學校前 多々見醫院 入院隨意 電話九四〇番

山田醫院 本町二丁目四十五 電話二八八〇番 内科 小兒科 花柳病 眼科 呼吸器病專門 胃腸病 山田萬作 （入院隨時） 尾形周太郎

胃腸新劑 ゴルフ 「ゴルフ」はタカヂアスターゼを主藥とせる健胃消化の新製劑なり 二十錢 四十錢 一圓 東京室町 泰昌製藥株式會社

各種染料 染料商 地方より御注文は各洋行品御希望の通買次可致候 豊 後藤商店 京城長谷川町五十八番 電話二一一八番

目まい 立ぐらみ 腹いた 急病、流行病の特効藥 登錄商標 萬病感應丸 大阪 本舖 正野法橋玄三 江州 販賣店は全國有名各藥店

渡邊文太郎儀病氣療養中の處十月二十日午前死去致候間謹告候 追而葬儀は來る二十一日午後四時途中葬列を廢し旭町三丁目護國寺に於て執行可仕候

大正五年十月二十日

嗣子 渡邊修一
親族總代 蜂屋孝之
鳥羽 翰
友人總代 釋尾春芿
大垣丈夫
吉田秀次郎
成田忠良
金崎金平
石原磯次郎

朝鮮雜誌社事務主任

葬儀請負 供花御寄贈品一式 京城本町二丁目（三越横） 朝鮮葬儀社 電話五六二番

神佛葬儀請負 供花御寄贈品一切 京城大和町壹丁目五一 大和葬儀社 電話二四三八番

汽車

[illegible]

宮本武藏

第百九十二回

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

水澤城内へ二天曉雲の浮人が申し出ますると早速に取上げ此の由伊達伯爵に取次ぐ直樣兩人を召出して取調べたる處、一人は小野向日守勝成今一人は天下に高名の宮本武藏正名でございますから、伯爵も此の兩人を叮重に待遇してそれより現場へ役人を遣はし檢視の上赤川の死骸は取捨に相成つて、其の外宮本を討んとした者共はそれ〳〵罰し、猶兩人に其の夜馳走の爲に能狂言を催して觀せました、最も能狂言といふは面白いものではありません、然し間の狂言は至つて面白いものでございます、二三日逗留をして此の水澤を出立いたしました、それより船岡を指して道つて參りましたが、恰當七里ばかりも來ると、何を云ふにも曉雲は老足のことであるから餘程勞れた、道端の木の根に腰を打掛け暫く休みまして曉『僧二天年を取ると叶んものだな。若い時には二十里位は苦もなく歩けたがもう今では六七里も歩くとモウ役に立たない、今日は何の位歩いたかな』二『左樣でございます、七里は確に歩きました』曉『それだから勞れたのも無理はない、此處で休で行う』二『左樣いたしませう』曉『此處は一體何といふ處だらう』二『此の十三峠を越ねまする船岡へ出るさうでございます』曉『然て見ると此の峠を越さねば行けぬかナ』二『左樣でございます』曉『それは大變だな、然し此の近邊には人家も無いから是非船岡まで參らねばならん』二『それでは徐々出懸けませう』と二人は其處を立て是から此の十三峠へかゝつて參りました、成程十三峠とは能く名附けた、上つたり下つたりして是を十三越ねなければ此の峠を過ぎる事はならぬ、名附けて是を十三峠といふ半腹迄りまで來た時にもう日は暮れてしまひ、行けども〳〵山路のみ是には驚いてしまつた、曉『イヤ何うも二天淋しい處だな、もう麓から三里も參つたらうな』二『左樣、確に三里は上つて參りました』曉『未だ頂上へは參るらん、餘程高い峠だ』と段々上つて參ると、向ふの處にチラ〳〵燈火が見ゑますから、曉雲は曉『イヤ二天向ふに燈火が見ゑるぞ然て見ると人家でもあるかしら』二『イヤ人家ではございません、野中に焚火をいたして居るものでございませう』曉『然うか、何でも宜いから行つて見やう』と二人は急いで來ると成程向ふの處に十二三人集つてドン〳〵焚火をして當つて居る、曉雲是を見て曉『オヤ大變だ、是は賊だぞ』二『イヤ何だか判りません』曉『然うでない、見なさい弓鐵砲なぞを餝立て、皆何れも長い刀を帶して居るから賊に違ひない、然て見ると此方共を無事には通すまい、先ずる時は人を制すと承はつた俺が一ツ賊を嚇かして遣らう、跡から來なさい』とズン〳〵先に立て其處へ來た曉『イヤお前方は大きに御苦勞だな、怎うやつて夜半まで寒いに張番をして居るのも大儀なことであらう、何にしろ一服喫みたいから火を一ツ貸しておくれ、さア二天お前も此處へ來て一服喫んなさい』○『お前さん方は何處から來なすつた』曉『ハイ、水澤から來ましたよ』○『水澤から來なすつたのじやア勞れたらう、まア悠然休んで行くが宜い、此處に茶も沸いて居るから喫みなさい』曉『それでは一服遣らして貰ほふ』と煙草を喫み茶なぞを呑で暫く休で居りましたが曉『イヤ大きに御馳走になりました、處で俺共は儒者と諮師で永の道中をしてもう懷中には金は無い、無いと云つた處でお前方は勸辨はすまい、今此處へ衣類を脫いで行くからそれだけで勘辨をして貰ひたい、さア二天お前も裸體になんなさい』と曉雲は纏て帶を解いて被て居た衣類を其處へ脫捨て曉『何うか是だけで勘辨して貰ひたい、裸體では道中が出來ないから此の襦袢だけ助けてくれ』大勢の者は二人が裸體になるを何をするかと思つて見て居たが○『お前方は俺共を何と見たのだ』曉『山賊だらう』○『何に山賊だ途方も無エことを云やアがる、俺達は十勝田山村の堅氣の百姓で山番をして居るのだ。

醫學士 杉本砂一

京城本町一丁目 杉本耳鼻咽喉科醫院 電話一三〇番

外科一般 皮膚科 泌尿器科 花柳病科

院長 安部修三

京城永樂町二丁目金光教會隣 安部醫院 電話四一九番

運勢

十月廿二日九星　丙辰九月廿六日壬辰　本命五黄　八方破　佛滅

▲五黄● 筋道のたゝぬ事有る日新事見合 南方は吉贈物なし ▲六白● 淵迷の日轉居 入學 行 商名乱 金談求 緣談 造作 婚禮 皆吉 ▲七赤● 妙なる日轉居 旅行 出產 名弘 金作求 職祈禱 笑彩金業等 吉 ▲八白● 成動き相談事有る日新事手控落事は吉 保證人 ▲九紫● 大願届く日轉居 開業 入門 名弘 求職 株上 金談 婚禮 人組の和を計る等皆吉 ▲一白● 人の爲か計りて災はる、事有る日注意新事手控 常の事は吉 ▲二黑● 目標しの事有る日新事手控荷事は吉女難小盜用心の事 ▲三碧● 手に入らぬ事多き日新事手控荷事は妙なし ▲四綠● 放縱の事有る日新事手控落事は吉、こゝろに托すること勿れ

十二指腸蟲病

說明書は往復葉書にて申込次第進呈

大邱府東城町 水田藥院 電話四六三番

〈演藝案内〉

浪花館　明治町 電話三六〇

○東部女流浪界之大關 桃中軒桃子改め日の本三部子嬢來る 今晩の讀物△武道の譽れ（武雄）△曾我の失敗（桃右衛門）△後藤三三（記長）生二席（神田伯猿）△五郎正宗（日の講本三部子嬢）毎夜正六時半開演

新寫眞

十月廿日より 新奇術と新寫眞 ▲天狗飛切の術 ▲舊劇 **鞍馬八郎** 全三卷 奇術應用の豪傑の大水盆 意氣畫面に潑溂たり ▲實演 **吉田菊五郎**一行 新藝數番差し替へ ▲新派悲劇 故川上眉山氏作 **觀音岩** 全三卷 劇界の花形五味一派出演 ▲番組多數に付正六時半開演仕候

有樂館

大正館　櫻井町 電話八七三

日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 [illegible]

黄金館　電話一八五二（階上） 二六三七（階下）

[illegible]

御成座　御成町 電話一九一

九日目狂言 義民傳「櫻陽」佐倉宗五郎一代記

有樂館　本町一丁目 電話二六六

[illegible]

男の生殖器病

生殖器發育不完全で包莖とか陰萎、早漏、遺精、夢精、勃起不全、交接不快、快感減少、腦神經衰弱など之の人は自宅で簡單秘密に新案特許眞空療法器を原因療藥を併用する時は一回毎に効力が現はれ豫想外の偉効に驚くべく知名博士も其實効を證明し所謂醫者が如しハガキで申込あれ開入說明書無代進呈す直接來院者には院部にて懇切に說明す

▲高價藥品を用ひる事を知らぬ的に所有者せよ

東京神田今川町五 眞空療法研究所 電話神田七二三番

吉田學明

人事百般鑑定需應す

鑑定料觀相五十錢當用易斷壹圓

鑑定時間 自午前九時 至午後十時

京城本町三丁目 大日本陰陽學會朝鮮支部

保險金領收廣告

一金壹千圓也　被保險者 星虎三郎

右は日清生命保險株式會社と昨年三月契約致居候處今般死亡に付敏速に保險金の支拂を受け候

玆に同社の確實にして懇切なる事を謹告候也

大正五年十月十四日

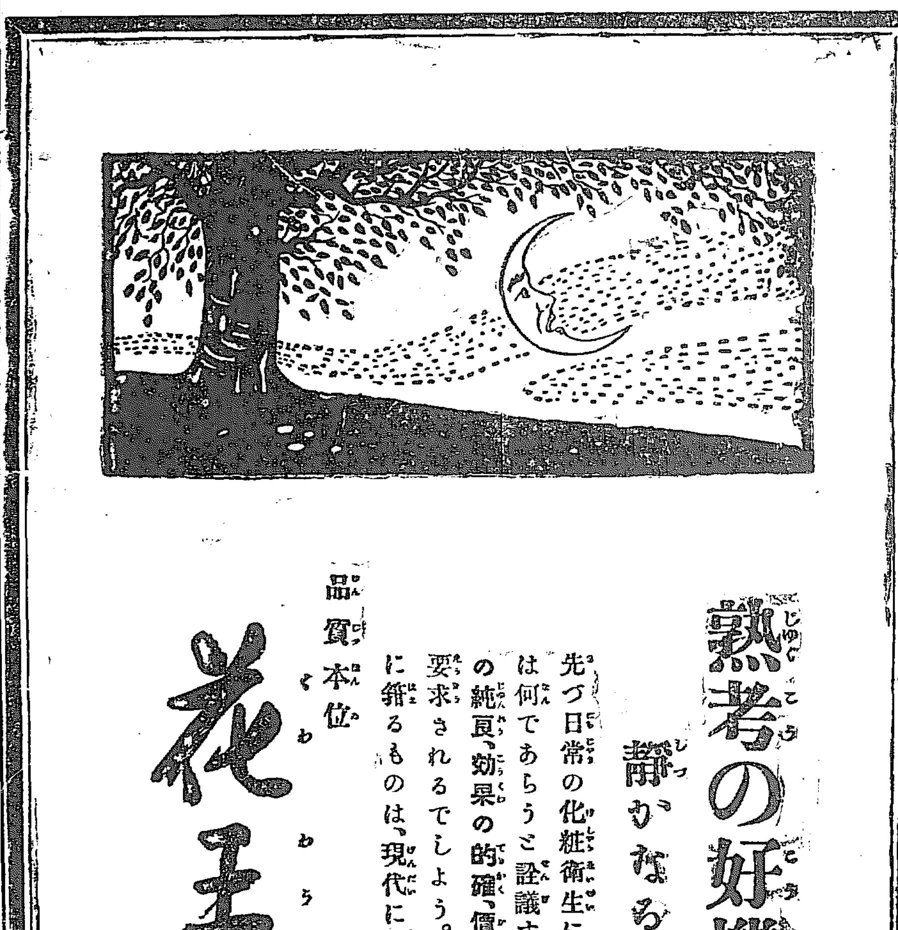
京畿道永平邑內 星虎三郎妻

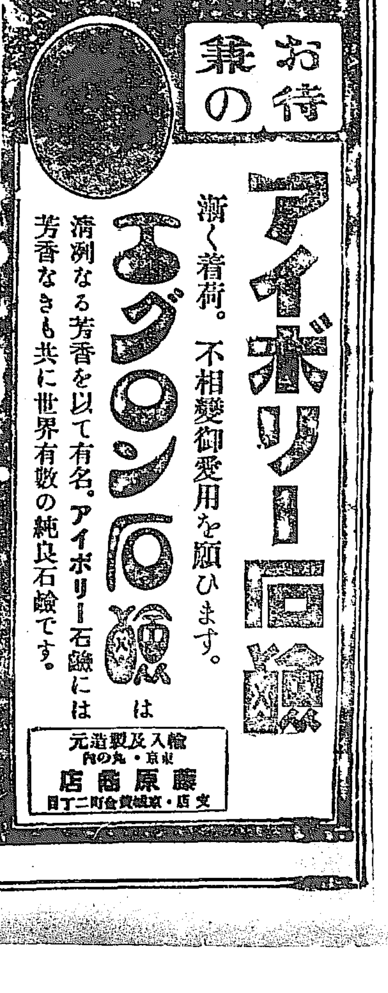
最上醬油

京城本町三丁目

田中支店釀造

電話七六四番





京城日報

第三版

支那政局推移

京城日報

支那政局の推移は、未だ混沌として、容易に逆睹し難しと雖も、一時唐紹儀の排斥と共に、政府國會の衝突となり、或は第四革命を、演出するに至るやも、保し難しと觀測せられつゝありしも、彼の國慶當日、段祺瑞一派の黎總統暗殺に關する、陰謀暴露せらるゝや、以來南方派の乘ずる處となり、北方派は不利の位置に陷り、萬事の計畫、聊か頓挫するに至り、時機を窺ひつゝありし馮國璋は、此の際南北の間に、巧に游泳し、漁夫の利を占めんとするの形勢にありて、稍々政界の小康を見たるは、更に來る可き、低氣壓の前提なりしなり、即ち馮國璋の、副總統に推擧されしは、之れ南方派が、北方派の龍斷を、牽制せんとするの、苦肉策なりしが故に、早くも之を觀破したる、北方派にありては、竊に徐州の張勳を使嗾して、徐世昌を、反對候補者として押立て、南方派と大に雌雄を決せんとせり。然るに國會に於ては、副總統選擧は、議員總數、三分の二以上の出席中、更に三分の二以上の、贊成決定に待たざるべからず。されば國會に於て、三分の二以上の、勢力を占めつゝある南方派は、心中窃に、其の成功を期したるが、之に反して北方派は、孫に焦慮苦心する處尠からず。副總統選擧問題は、北方派に取りては、實に由々しき大問題たりし也。然れども北方派は、外交總長後任に對しては同派の推薦者たる、汪大燮が、一般に氣受け好かりしより、稍々安堵するに至れり。されど北方派に於ては、副總統の位置を、南方派に奪取せらるゝは、一總長の椅子を得るよりも、より以上の苦痛を感ずるが故に、北方派は、極力之が妨害を試みんとし、段祺瑞の腹心たる、徐樹錚の如きは、早くも南方派中に、[illegible]を以て滿足せざる者あるを觀取し、岑春煊說を利用し、廣東派の內申俱樂部を、巧に買收、或は煽動して、他迄も、春說を主張せしむる等、暗中大に飛躍する處ありし結果、先づ第一に、副總統選擧期日の採決に當り果然國會は、未曾有の大紛擾を惹起し、遂に決定に至らずして、散會するの、止を得ざるに至りし也。

事態既に斯の如く、一時の小康は却て後日の、大波亂を惹起すべき、導火線なりし事、明なるに至れり。更に南方派は、唐紹儀排斥の、復仇として、徐州の張勳に對する、彈劾的質問書を、國會に提出し、政府の答辯を試むるや、其の答辯、頗る冷々淡々たりしより、尙ほ進んで、該案を提げて、政府に肉迫せんとし、北方派亦、其の對抗策として、孫內務總長が法規を無視せる、行政上の不法行爲をなせしとて、平政院に訴訟を提出し孫の辭職を餘儀なくなさしめんと計り、南方派亦之に對し、一時其の決定を期待されたる、汪外交總長案を、忽ち國會に否決するに至れり。斯くて支那政界は、更に倍々混沌、暗鬪を重ね來り、遂に其の結局が、一大問題を惹起し來らんかを憶ふ。而して支那政局の暗鬪が、其の及ぼすべき迷惑は、單に支那のみに止らず、直接に、間接に、我帝國に迄、波及するに至つては、我國の迷惑亦、此の上もなし。支那政治家たるもの、此の際大に猛省を要すべき也。

朝鮮の古城郭（三）

八木奘三郎

（四）歷代城郭の變遷（承前）

（乙）三國時代の城郭（續）抑も麗濟羅の三國が半島に雄を爭ひしことは年代甚だ久しきに亙れども、彼の三韓との關係に就ては高句麗全く沒交涉にして、羅濟の二國尤も緣故あり、就中高句麗と同種族なる百濟は深く半島の內部に進入せしが上に、支那の文化にも接觸し居たる形跡あれば彼の樂浪、帶方に次いで漢式の築城を創始せしは恐らく此一派なる可し、されば百濟の根據とせし南漢、北漢の兩城は三國初期の形式を知る可き唯一のものなれども世人の之に注目せざるは一奇なり、予は平素之を探らんとすれども、其好機を得ず、今に實査の手を下すこと能はずと雖も幸に洪敬謨の著はせし南漢志には右の事蹟を述ぶるに依り、左に其要點を抄出して此缺を補ふこととなせり

序文に曰く

京師を距る東南四十里の地を廣州府と曰ふ、百濟の故都にして新羅の南漢山州なり、地は漢水の南に在り、府を漢山の下に於てす、故に南漢と曰ふ、麗に在ては廣州と曰ひ、而して今之れに因れり、府に主たるもの四、鎭を軍主と曰ひ都督と曰ふ、麗には牧使と曰ふ、而して使を府尹と爲し、尹を留守に陞す、本朝の稱する所なり、其山城の如きは羅時始めて[illegible]に築く、而して羅より麗に訖るまで千有餘歲、城の興廢、復た考ふ可からず、云々

山城は世に百濟の溫祚王都する所の城となす、未だ何の據あつて說を爲すを知らざるなり、百濟史に曰く溫祚の十三年、漢山の下に就て城闕を立つと、漢山は卽ち今の日長山なり、而して溫祚山下に就て城闕を立つれば則ち城を山上に築くに非るなり、蓋し其舊都は卽今の黔丹山下にして、廣州の古邑治なり、猶は舊址の尋ぬ可きものあり、古史野乘初め山上に城くの文なし、世人故を究めず、直ちに其故都南漢山城に在りと稱して城を溫祚の築く所と爲すは何ぞや溫祚山下に都すと雖も、或は柵を設け、土を山上に築き、以て關防の地となし、而して新羅の文武王其址に因て更に築きしもの歟、濟史疎略、殊に未だ致て然るを知らず、特に百濟の古城山下に在るを著して以て其山上に在らざるを明にするなり。

右の序文は溫祚築城の地を山上にあらずして山下と斷じ、且つ其舊都は今の黔丹山下にして廣州の古邑治たり、又當時の遺址尋ぬ可きものありとなすなり。

黃海道を縫うて（九）

豹の子生

△縫ひ上げた道程

樂山鑛山では滯在四日に及むだが其れでも却々忙しい身體であつた。到着の日は宵宮の宴で徹宵酒を浴びせられ、其の翌日は第二精鍊所の落成式鑛山の記念日、鑛祭りと有ゆる御目出度が重つた祝日なので終夜騷ぎの中に沒頭した、其れから次ぎの日は卷狩とあつて山から山を引つ張り廻はされてへト〳〵になり、其の翌日は長淵の濱田鑛山に出掛けて行つて所謂シユインピランコリに膽を冷した斯くて三泊の後漸く樂山を發つて松禾溫泉に遊び、湯治二日慢性の胃袋が幾等か和いで來た樣に思つた其の朝名殘惜しくも宿の爺さんに別れを告げ、同夜に殷栗郡金山面の富田鑛山に鞋を脫いだ、而して九日間の道程先づは恙なく了へて兎にも角にも黃海道の山川を縫ひ上げたのは其の日であつた。

△衞生思想と設備

途中の所感も隨分書き連ねたから、もう宜い加減で打ち切る事とするが唯だ茲に一つ書き加へ度いことは田舍の衞生設備である。自分の見る所では地方民の衞生思想は今や何ものよりも進むで來た樣に思はれる、之れは往時の狀態を餘りに不潔なものに考へてゐた爲めであるかも知れぬが沿道の民家を覗いて見ると各戶共相當淸潔を保つてゐる、居間には大した汚物も無い、庭には塵埃の跡も見ぬ炊事場だつて內地の農家などゝ比べて差したる遜色も無い樣に思ふ、之れは洵に喜ばしい現象であるが、然し其の設備に就いては未だ遺憾の點が少く無い樣である。一例を擧げては際限がないけれども便所や下水の如きも一寸見ると格別往時と變りは無い、富田氏の小作人や鑛夫の集團する部落には三戶に一個五戶に二個といつた風に共同便所が設けてあつて婦人でも子供でも必ず其處で用を達すことを勵行してゐるが、之れは一般の取つて以て模範とす可きもので一部落を占有する大地主などは宜しく之に倣ふ可きである、若し夫れを許さぬ事情でもあるなら各部落に組合の樣なものを作つて其の手で經營するもいゝと思ふ

△新政了解の時期

兎に角現下は一般の衞生思想が非常に勃興して來た時であるから此の期を外さず其の設備に努めることが必要である。一體朝鮮の人民は何事でも政府に賴り賴つて行く癖がある。當局だつて直樣一々賴られてゐては限りある豫算に縛られてゐる以上到底も遣り切れたもので無い。自活といふ事には一利一害はあるだらうが斯んな問題に就いては如何しても或る程度迄は自治的でなくては萬全を期する譯には行かぬ。縱令自治とまでは行かぬとするも少くとも上下呼應して以て完璧を計らなくては駄目である。一時に多くを望むのは無理であるが一寸地方を廻つて見ても切望に堪へぬものは却々多い、地方は未だ〳〵覺めなくてはならぬ、地方民諸君は未だ〳〵勉めなくてはならぬ。新政治の眞の有難さが解せらるゝ時期は其處である眞に其處である（完）

廿一日朝刊 夕刊と合せて八頁

本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金七拾錢 …

廣告料 …

發行兼編輯人 奥田[illegible] 印刷人 小川三之介

發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

仁川米豆取引所

▲依然小堅し …十一圓八十錢と寄付たるも…大阪の跡高を移して四錢と擧げ…

▲㊦能く賣る …一萬二千餘石の賣ありたる…市場の注目を惹いたり

▲賣買聯合說 …大阪及各地共前日來…

十月限 六千七百石
十一月限 六萬三千二百石
十二月限 七萬三千四百石

最新刊

大內青巒先生序 笛岡清泉先生著

禪のてびき

中判總クロース特製 價金六拾五錢稅八錢

方今禪を語るもの多し、而かも其の眞趣を捕へて之を平明に說話し得べきものに到つては容易に求め難し、著者は之を遺憾とし、禪を說きて俚耳にも入り易きを旨として東西古今の例を示し、深遠なる禪道を取りて讀者をして翕然として光風霽月に對する思ひあらしむ、まさにこれ求道者に取りて一大指針たるを失はずと云ふ可し

發行所 東京日本橋區通油町 振替東京一五〇五六番 磯部甲陽堂

簿記 募集

通學生 寄宿生 校外生

私立認可 日本簿記專修學校

東京芝區櫻川町十一番地

飛行機の如く速かなる本誌の發行を注意せられよ

小學新報

圖入

十一月號 出來 各書店にあり

▽安價にして記事繪畫の天下第一△

一部 八錢 郵料一錢 半年六冊 五十錢（郵共）

東京・市谷 小學新報社 振替東京二九四四一番

健に日々五分間の運動にて無病强健となる世界的發明

川合春充先生著

強い身体を造る法

新刊忽ち十版

▲紙數七百頁 正價金壹圓七拾錢 小包料十二錢

心身强健術

四十版出來

▲紙數五百頁 定價金壹圓貳拾錢 小包料八錢

畏くも天覽の光榮を賜り各宮殿下の御目前にて台覽を忝ふせる……

川合式の强健術は場所も機械も費用も要せず日々僅に五分間の運動にて偉大の効力を現し、虛弱の人も强健となり精力旺盛となり、頭腦明晰となる

▲諸名家の證明 ◎實話集無代進呈す

發行元 東京市日本橋區馬喰町 振替東京一八四四四番 興文社

朝鮮特産

人蔘界の大王

純人蔘精膠を召上れ

◎精力忽ち旺盛となり疾病に對する抵抗力を强大にす

主治効能（內用）▲精力衰弱 ▲神經衰弱 ▲老衰 … （外用）▲火傷 ▲切傷 ▲打撲傷 …

正價 內用十五入 十日分 金七十錢 / 同二十五入 二十日分 一圓四十錢 / 同三十五入 三十日分 一圓八十錢 / 同六十五入 六十日分 三圓二十錢 / 同九十五入 九十日分 四圓五十錢

◎本劑の奏効絕對に確實なるを普及する爲 當分定價の一割引

京城長谷川町五八 朝鮮製藥專賣所 振替京城三八一〇番

天下獨步の自習書縮刷成る

芳賀博士・杉谷代水氏共著

作文講話及文範

書翰文講話及文範

▲定價半減 携帶至便▼

現代名家書簡集

書翰文講話及文範別編 芳賀博士校閱・富山房編輯部編纂・箱入極美本・正價金壹圓

特價金八拾錢 郵稅金八錢

見本進呈 東京神田 冨山房 振替一〇五 全國書店 賣捌

大正六年 カレンダー

必ずお氣に召します（御見本持參）

今迄にない丸形ハート形小判形の日表の打拔品と新式の密紙一度御覽下さい

賣上を倍加する 年末年始贈答用 新式引札

大阪吉井代理店 京城本町 ウツボヤ書籍店

元老院御編纂 福羽子爵增訂補遺

皇位繼承篇 纂輯御系圖

補遺共全十三卷合本五冊

第二回豫約申込期限 大正五年十月三十一日

歐洲戰役は世界の各國民に何を敎ふる。吾人日本國民に最も深刻に何を感得せしむる。富國？强兵？特殊なる國體の研究？皇室中心主義の樹立？此秋に方りて波多野宮內大臣、高田文部大臣及田所普通學務局長が、熱心に、剴切に、各方面に向つて本書の普及を勸獎せらるゝ所以のものは、抑々何ぞ。一度ならず、二度三度、豫約出版を爲して低價發賣を强行する書肆の努力は、抑々何の見る所ぞ。國家萬代の基、實に此一書に在り之を知らんと欲する者は、請ふ直ちに內容見本を要求せよ。

發行所 須原屋本店

取次 各地有名書肆

定價金八圓 豫約價金五圓五拾錢（一時前拂金五圓）

タイヨー萬年筆

曩に五千本を限り特價賣出しの本品は非常の好評にて愈々全部を賣盡したれば各位の御厚情に酬ゆる爲製造元と交涉し引續き特價六十四錢を以て販賣可仕候間相變らず御用命ありたし

京城日報社代理部 京城太平通一丁目 振替京城二〇〇番

◎日本要求撤回打合

鄭家屯事件交渉と王鴻年

王鴻年氏は駐日支那公使館參贊として赴任の途次奉天に來り鄭家屯事件交渉に於ける日本の警察權委任要求を撤回せしむる事件に就き張督軍と打合せを爲したり(奉天特電)

◎副總統選擧期未定

意思不疏通の爲め＝多分廿日か

副總統選擧期日決定に關する兩院聯合會は十八日開會の豫定なりしも同日は支障ありて開會の運びに至らず多分二十日開會のことゝなるべきが要するに這は議員間に意思の疏通せざる點あるが爲めならん(北京特電)

◎潜航商船喪失承認

米國聯合通信華盛頓通信員の所報に依れば國務卿ランシング氏は語つて曰く獨逸運動の實情に通ずる獨逸外交家は潜航商船ブレメン號の喪失せし事を事實上承認せりと(紐育電報)

◎中正倶樂部解散

公友派との合同は議會開會前か

中正倶樂部にては十九日午後より本部に總會を開き花井、加瀨、橋本、田川の諸氏出席、憲政會成立後に於ける中正倶樂部の措置に就き協議したるが結局既に其の大多數が憲政會に參加したる以上中正倶樂部は自然消滅と爲す事に一致し茲に最後の解散式を行ひたり尙憲政會に參加せざりし橋本、加瀨、高野、尾崎(元)其他の九氏は當分無所屬に入る事となれるも公友倶樂部との合同は兩者の希望なるを以て議會開會頃迄には合同成立すべし(東京特電)

◎聯軍の雅典秩序維持

雅典來電＝聯合軍は雅典の秩序を維持する爲め最善の努力を盛せり上陸中の佛國海兵隊は兵卒百名機關砲九門の增援を得擧つてザペイオン公園に屯せり佛國海兵は行進中一般公衆より喝采を浴せかけられサン、シデイアム街にて折柄行進中の希臘海兵の一隊に逢遭せるが希臘側は態と異途に避けて過ぎ去りたり(倫敦電報)

◎羅軍獨侵入軍を擊退

ブカレスト來電＝公報に依れば羅軍はトランシルヴアニアに於ける獨逸の侵入軍を擊退しつゝあるが或る地點に於ては國境を越ゆて敵を驅逐せり獨兵にして捕虜となれるもの數百を數ふ(紐育電報)

◎塞軍ブロド村落占領

巴里公報に依れば佛軍はビアチエスとラマイツネツテとの間にて更らに前進をなし塞軍はマセドニア戰線に於てブロト村落を占領したり(紐育電報)

◎臨時神宮祭主

神宮祭主久邇宮多嘉王殿下には二條恒子の方逝去に付御服喪御遠慮中に付二十日午前十時三十分宮中御座所に左の如く臨時神宮祭主親任式御擧行相成りたり(東京特電)

侍從長陸軍少將正二位勳一等公爵 鷹司熙通
兼任臨時神宮祭主

◎定例內閣々議

二十日は內閣々議定例日に付寺內首相を始め各大臣は午前十時より相前後して登閣內外諸般の政務に就き閣議を開きしが來年度豫算に關し當日は未だ之が審議に至らず地方長官會議召集の件其他數件を決定し正午散會せり因に明年度豫算編成換へは次回の閣議より開始さるべしと(東京特電)

◎有望な明太漁

明太魚は咸北明川郡に於て漁夫太氏[illegible]食膳に上らざるなく殊と冠婚葬祭[illegible]に當り殆ど缺ぐべからざる式物として珍重さるゝに至れるを見るも其消費[illegible]るべきもあるに拘らず獨り明太魚のみは昔日の儘に委棄せられ漁撈の機動著しく而も內地人は之等の事情に精通せざると小資本を以て到[illegible]の[illegible]すして確實なる大資本を糾合したる團體に依り之れを總括し最も組織的に明太漁業を經營するの大[illegible]

◎來議會召集期

三十八議會を十二月一日に召集せんとせば議院法の規定に依り十一月二十日を以て確定公布せざるべからざるも來年度豫算審査の爲め其の運びに至らざるを以て議會の召集は十二月下旬となるべく右召集の勅令は十一月に入りて公布さるゝに至るべし(東京特電)

◎閔丙奭子傳達

十九日入京せる謝恩使李王職長官閔丙奭子は二十日午前九時寺內前總督を麻布の自邸に訪ひ李王殿下の御傳言を傳へ尙記念として目錄一封及び金銀製花瓶一對を傳達せり(東京特電)

◎上院補缺任命

愛知縣選出多額納稅議員伊藤由太郞氏の補缺は二十日左の如く任命ありたり(東京特電)

正六位勳四等 鈴木惣兵衛
依貴族院令第一條第五項任貴族院議員

◎勅選議員缺員

貴族院勅選議員は倉富勇三郞氏の辭任と宮本小一氏の逝去とに依り二名の缺員を生じたり(東京特電)

◎隈侯後援會解散

大隈侯後援會は侯の辭職と同時に解散の筈なりしが其の後大隈侯國府津に赴き二十二日歸京に付二十五日頃解散式を擧行すべしと(東京特電)

◎露軍需米積出

本月末頃より著手

曩に京仁精米業者に於て引受たる露國軍需鮮米五萬七千石は諸種の關係より其の發送遲延しゐたるが精米の蓄積漸く多く而して積込船の傭入契約亦成立せし結果來る二十七日若くば來月二日元山より其の第一回積出しを行ふべく準備を進めつゝあり汽船は北海道某船主の所有する北陽丸(一千五百噸)を以て充つる由尙ほ五萬七千石の精米を北陽丸のみで輸送するとせば其の船腹の關係上一月三回宛元山浦鹽間を航行するとし明年三月までの時日を要する計算となるも引受者の露國へ引渡し期限は十二月末日となり居るに付自然北陽丸以外何等か船腹を見出さゞる可らざるべく或は朝鮮郵船に其の一部積込みを依賴する事となるべきかと云ふ

◎北滿の野に觀戰の後

川村元帥莞爾として車中に語る

川村元帥の歸東の途に二十日未明京義線列車中に迎へ、其の闊らかに話べる步み寄るかすかに元帥章及び功一級金鵄勳章を帶べる寬厚の大將は記者の問ひに應じて諄々と語る

▲長谷川新總督 長谷川元帥の朝鮮總督親任は十八日通知を受けて正式に知つた、朝鮮の開發に熱心なりし寺內伯の後任を官制通り陸海軍大將に求めると其の數は頗る尠ない、長谷川伯は其の尠ない內の最も威望あり材幹ある武人である、私と長谷川大將は永い間の友人で其の性行の如き知り過る程知つてるが、寺內伯の確立した朝鮮統治の大方針を受け繼ゐで朝鮮經營の任に當るには最も適材である成程手腕家を求むれば若手の武官に豪い人もある併し大臣を勤めた山縣政務總監の上に總督たるには長谷川伯の如き故參大將でなくては納まらぬのである、唯同元帥は寺內伯が陸軍大臣を永く勤めて後朝鮮總督に就任したのとは少々趣きを異にし政治上の經驗はないのであるから其の交涉に對しては恐らく一考も二考もしたらうが

▲國家の爲め 振つて任に就いたものと思ふ、植民地の經營は何人が總督になつても交通の整備殖產興業教育の振興法制の完成之れを常に念とせねばならぬ、過去に於て寺內伯は之れをよく實行して來た、長谷川新總督の政見に多少寺內伯と相違するものありとするも、それは枝葉の點なるべく朝鮮統治の大本は決して搬くまいと考へる、上原大將の總督說は噂も聞いたが、上原は材幹十分なれど、參謀總長としては新らしい殊に昨今は其の立案せる陸軍特別大演習を眼前に控へてゐるから鳥渡任所を離れ難い、私は初めから其の無實なるを信じてゐた

▲國亡びて山河在り 平壤及び鴨綠江に於ける日淸日露兩役の戰蹟は從來圖上ばかりで視てゐたのだが、今回實地を踏み參謀將校の說明を聞き大に得る所あり愉快であつた、安奉線の往復は關東都督府の參謀が終始附き添ひ車窓より山河の說明をして吳れた、予は日露の戰時鴨綠江軍を率ひ大孤山に上陸して連山關鞍山站遼陽沙河奉天と轉戰したのであるが、今日汽車で此の古戰場を通過すると泌々當時名譽の戰死を遂げた多くの戰友の事を追懷し、淚は私の老眼に絕へなかつた『國亡びて山河在り』の感が殊に深い、日露の戰時中隊長、大隊長たりしもの今日では多く大佐少將である現に古海君(參謀總長)の如き當時中佐で私の參謀副長を勤め、先日參謀本部々長に行つた西川少將も少佐の靑年參謀であつた

▲北滿の師團演習 北滿に於ける第十七師團の秋期機動演習を觀戰して私は種々の事を感じた、何分非常に廣漠たる平野だから北滿で一箇師團の兵を動かすには內地で一中隊の兵を動かす位の感じしかせぬ、演習としては最終露支武官を宣する星野中將の率ゆる第十七師團が假設敵を作り長春總攻擊を行つたのが最も成績良好だつた主力及び左右翼の驅引動作殆んど一點の非議を挾む餘地がない、私は感嘆之れを久しうしたのである、其の以前の旅團對抗演習の二日間は天も晴れてゐたが三日目劉房子附近で師團長の講評があつた際など雪交りの雨頻りに降つて寒威嚴しく約一時間半私も野天に雨雪に打たれつゝ立ち盡したがコレハ生來始めての經驗だつた、頗る喜ばしかつたのは支那人との間に何等の故障も起らなかつた事である、此頃鄭家屯や喇嘛甸で二三の日支兵衝突事件を見た後だから、或は今回吾兵の動作により問題をドコかで惹起せずやと氣遣つてゐたが何等其事なく、又地方支那人は果して演習たらうかと多少疑惧の念に驅られた向もあつたらしい、然し吾兵の

▲嚴肅なる軍紀 を見て釋然了解後には大に好意を寄せてゐたやうだ、それに支那人等は日本兵が諸々に屯在はしてゐるけれど、これ程多數駐滿せりとは思つてゐなかつたらしく、數千の精兵が曠野を縱橫に馳驅し更に長春で盛んな觀兵式を擧行したので彼等は吾軍の勢力に非常に驚ろいてゐると云ふ事であつた、唯滿洲の野で困るのは道路の不備で之れには砲車の運搬に困惑し、土地が粘質だから步兵はお餅の靴裏に附着せるやうの思ひして行軍にも困難せる次第であつた、然し北滿の大演習は本年初めての試みとて各種の點に得る所が多かつたやうだ

▲開けた朝鮮 朝鮮は內陸に入り込んで見ると鐵道の素通りだけでは眞相が覗へぬと云ふ事であつたが私は京釜京元京義三沿線だけしか見ぬから其の實情は深く知り得てないと思ふ、併し私の內地で想像してゐた朝鮮は山も土地も磽角不毛で木も草も作物も碌々生長まいと思つてゐたのに事實は大違ひで仲々よく開けてゐる、土地も肥えてゐる、行く行く產業も起り富力も增加し行く事を信じて疑はぬ、實際朝鮮はよい所だ

◎仁川特定運賃問題

既報の如く共益社特定運賃問題に關する有志者大會は二十日午後二時三十分仁川商業會議所に於て開會されたるが來會者は會議所側よりは稻田、林、武田、川添、下田、美濃谷、北島、白神の諸氏穀物協會側よりは松本、庄野、吉金、辻川其他數氏鐵道局よりは安藤參事府尹、堀田書記長は開會の辭を述べ次で滿場一致にて稻田氏を座長に推すや同氏座長席に著きて開會を宣すると共に穀物協會より提出したる建議案に基き仁川商業會議所に於て役員會を開きたる結果有志大會を開催したる旨を說明し夫れより穀物協會より提出したる建議案に基く請願の可否を諮りたるに滿場異議なく可決續いて鐵道局に請願し其提出の件を可決したるが穀物協會の建議案に依れば共益社特定運賃撤廢は一般同業者に拘ぎすとあり兩者何れかの一方に決し然る後態度を鮮明にする必要あるを以て座長は起草委員として白神、北島、武田、松本、辻川の五氏を指名し一先づ休憩引續き開會し議したる穀類遠距離大低減運賃制撤廢を要路に訴へ多年の宿望を貫徹せん事を期すと云々の決議案を朗讀したるに異議無く可決を終つて今後の運動方法を商業會議所に一任する事に決し午後四時半散會せり

◎京城金融概況

當地金融は決濟資金及び各物資資金にて八月末を比較的繁忙裡に見送りたる金融界は九月中旬に入り諸資金の需要も一先づ一段落を告げ前月來諸物價の騰貴は一般購買力の減退を來し加ふるに鮮內各地稀有の出水は一時諸物資の廻送著しく尠からざる滯滯を惹起し且つ端境季に入りたることゝて米穀雜穀は出廻を目前に控へて荷動鈍り勝となり牛皮亦露國筋注文不確定の爲め氣迷の狀を呈したる等一般資金の需要拂々しからずして金融界は一時不況を呈するに至りしが下旬に入り雜穀新物の出廻を見細布の行も頓に加はり資金の需要次第に起り來り金融界は稍々繁忙を見辛うじて小康を維持するを得たり金利は保合にて變動を見ず。金融の前途に就ては追て冬物の季節に入り又穀物の出廻を目睫の間に控へたると且つ諸物價一般に騰貴の傾向を示せるを以て季節物に對し相當資金の需要を惹起すべく久しく沈滯の狀勢を持續したる當地金融界も遠からず一段の活況を見るに至るべきか、今九月中市內九銀行の殘高を見るに之を前月に比し預金に於て十一萬八千餘圓貸出に於て八十四萬七千餘圓の各增加を示せり更に之を前年同期に對比する時は預金に於て三百八十一萬八千餘圓貸出に於て三百十五萬二千餘圓の何れも增進を示せり

◎醫師試驗一部終了

朝鮮總督府醫師試驗第一部は既報の如く十八日より施行十九日終了二十一日成績發表の上來る二十三日より第二部試驗を行ふ筈なり而して兩日の第一部試驗問題左の如し

物理學
一、高處より地上に飛下るとき爪先にて立つときと踵で立つときの相違は如何
二、エツキス線に就て知る所を記せ
三、屋上の雪は日光の良く直射するに拘らず永く殘り道路上の雪は早く消ゆるは何故なるか

解剖學
一、關節の種類及び其例を記せ
二、胸筋の起始停止及び作用を記せ
三、坐骨神經を記せ

生理學
一、血液循環の生理的意義如何
二、病的に尿中に現はるゝ成分如何
三、小腸の消化作用如何

化學
一、化學的變化と物理學的變化とは如何
二、クロールアンモニウムの性狀及び化合式を記せよ
三、フロームナトリウムはクロールに逢ふて如何なる化合方程式をなすや

◎仁川煎子市況

忠淸南道の各島嶼より仁川に輸入せ[illegible]及び[illegible]單に忠淸南道方面に於ける漁獲に依て頽勢を維持するに止まれり、例年[illegible]重に京仁地方其他沿線各地にて需要[illegible]萬二千圓以上に達す可く消費地は[illegible]第二萬四千圓以上に達し忠淸南道[illegible]面は九箇所の內地人製造所に於て年[illegible]年一萬五六千圓の產出を見つゝ有る[illegible]

人事片々

▲茂木成一氏(陸軍中尉) 廿日夜入京天眞樓へ
▲藏原忠太郞氏(元山電氣會社長) 入京中の處二十一日朝退京

◎南北三語◎

希王コンスタンチンも愈々窮して來たらしい▲股肱の內閣とは衝突する佛艦隊司令長官からは嫌んと最後の通牒同樣な申込を受ける▲最う此の上はラリサへでも引つ込んで命と賴む獨軍の護衞でも受けねばなるまい▲最初から其れが御希望で御座つたに相違ない其れなら其れで早く其うと決せば今日迄苦痛しなくつても好かつたのであらうに苦勞性なお方と見へる▲苦勞と云へば西班牙が講和の斡旋を始めたらしいが之れも御苦勞な事だ聯合國の決心を碎くには西班牙ではチト荷が重過ぎはせぬのかナア▲苦勞は成丈け避けて居るが悧巧だ求めて苦勞するのもヨク〳〵な事だ▲最う少し控へて居るが好い獨逸では七十位の爺さんが孫をつれて及び腰で戰場へ出かけて來たしたから余り永い事はないよ第一寒氣許りでも凹むのだらうから▲凹まないのは支那の政爭で南北兩派の政策は全く將棋を見る樣である北方が王手と行くと南方はドツコイと障駒を打つたかと思ふと今度はスグ相手へ王手と喰はす▲處が却々勝負は決かぬやがて短氣な先生が徐州邊から出て來てエ、面白くもないと盤面を引つ掻き廻すと其れからが大立廻り▲其の樣な先生が飛び出さぬ內に早く黑白を決定したら可からう▲餘計なお世話か知られが見物迄がヒヤ〳〵する事がある▲蒙匪討伐の時突泉で戰死したと傳へられた吳中將はまだ生きて居る▲生きて居る許りぢやない奉天へ歸つて來た之れはお芽出度と御祝儀を述べやうと思つたら▲患部は舊式彈丸で擊たれて居るのだ大穴があいて化膿して却々の重傷▲果して全癒するか否は未だ問題で或は全く右臂の用を失ふかも知れぬと▲イヤ一度死んだと思やあ右臂などの一本や二本は何でもあるまいテ

秋冬服地新荷着
セビロ三ツ揃、オーバコート、インバネス
金十六圓均一
金十八圓均一
金二十圓均一
金廿二圓均一
柄の新しい氣の利いた高尙の品澤山荷著價は安くてスタイルの良い縫の裁斷
東京麴町區山元町貳丁目角 電話番町一〇四一、四六六番
關根商會高等洋服店
地方郵券十錢添へ概略服種類直段等御申越次第見本及寸法用紙御送附す

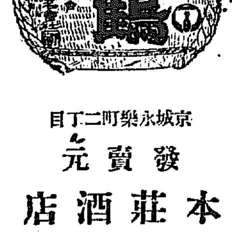
日常法律顧問雜誌 素人早分り 年中重寶者 鑑定無料
實業法律
△本月號(第七十一)より內容益々擴張
△每月一回一部六錢一年前金五十五錢
東京麴町區尾井町三 實業法律社 (振替東京一六七六) 電番四七六六
△各地支部勸誘員募集す保證不必

移轉御披露
今回都合に依り左記の處へ移轉仕候倍舊の御引立奉願上候
大正五年十月
京城府本町一丁目五十番地
古川鑛業所
所主 古川專之助
內山惠之亟
電話二五六六番

◎病人諸彥に急告す
今般不肖笑堂儀多年の苦心と經驗とに依り得たる效果偉大なる心的治療法を左記場所に於て施行し萬病に苦しむの諸士を救はんとす乞ふ一般病人諸彥此の好期を逸せず直ちに來つて回春の效を期せられよ
十月二十日
心的作用探究者 加藤心的治療法
加藤悟導軒笑堂
◎場所 市內壽町二番地原金旅館
◎開始期間 十月二十一日より向ふ參週間
◎治療時間 午前九時より午後四時迄
◎料金 每回一圓
◎效果なき時は料金は返金す
◎心的療法研究志望者は懇切相談致まし

日韓書房
新版報告
山本實彥著 我觀南國 定價一圓五十錢 送料十四錢
俳諧叢書 芭蕉翁全集 定價一圓二十錢 送料十四錢
ロドムバ著 マクベス 定價一圓 送料十錢
姉崎正治著 法華經行者日蓮 定價二圓二十錢 送料十八錢
佐藤酉之助著 最新例題 珠算獨習 定價六十錢 送料八錢
京城本町二丁目 電話一四五 振替口座一一五番

イゲダ小兒病內科醫院
池田季雄
京城三越吳服店前(入る旭町四丁目) 電話(醫院一二三四番 自宅八八〇番)

優等清酒

京城永樂町二丁目
發賣元 本莊酒店
電話六五四番 振替京城六二〇番

米五百年の久しきに亘り[illegible]り下は庶民に及び京城の大都市より山間僻陬の地に至るまで苟も鮮人の[illegible]ところなるべし今や漁業に對しては全鮮何れの沿海に於ても内地人の活[illegible]て自ら[illegible]し直接之れが經營を企畫するものなきは何故ぞ、蓋し明太漁業は古來鮮人獨占的の事業にして[illegible]げ、倘充分に調査の上從來の如き小資本家を兼併擁護するの方法に倚るも[illegible]々販路の擴張、開拓に努めんか其の成功期して待つべきものあるべし
[illegible]方面の漁獲物は雄山に輸出さるゝを以て仁川煎子市場は例年の活況なく[illegible]外煙島附近の産にして年約四萬圓[illegible]人前子製造所に於て製造せられ年産[illegible]

●内地風に教育される朝鮮の兒童（二）
母娘が對面しても言葉の通ぜぬ喜劇

内地人の學校に入學させると云ふことは普通學校に入學させる樣な簡單な手續では濟まされず先づ第一に小學校は内地人を教育する爲に設くるものなりと云ふ

■法令の許 を得た上に内地人の學校組合の經營にかゝる學校に入學させて貰ふこと〳〵て内地人の子女が支拂ふ月謝の殆んど倍額を負擔した上に一學年に就き廿圓位の特別寄附金を支出せなければならぬ此樣にしても子を思ふ親の心に別のあらう筈はなく吾子の行末を思ふの餘りに内地人式の教育を施したいと云ふのであるまだ其上に姓名から

■衣服迄も 純内地人流に改めて通學させて居る中にも趙東潤男、閔泳韶男、宋秉畯子の各家庭では何れも師範出の本科正教員格の人を家庭教師として囑託して居り李完用伯の如きは其令孫を日出小學校長河合精一郎氏の宅に預けて薫陶を頼むと云ふ勢である右の中宋秉畯子の令孫智惠子さん（九）と雪子さん（二）の二人は東京で

■幼稚園を 終へ小學校を中途に退いて今は日出小學校の二年と四年に在學中であるがお宅は氏家さんと云つて師範出の家庭教師が附添ひ南山町の宅で住居も食事も全部別にして純日本式な教育を施して居られる何んでも今年の五月頃二人の令孃が東京から歸つて來た時に水原から七里奥の田舍に居るお母さんが遙々四五年も會はない

■我兒の顔 を見ようと思つて尋ねて來た時に現在自分の眼の前に居る子供を此日本の子は誰の子かと尋ねた位で貴女のお子さんですと云はれて初めて氣がつき話をして見たが兩方共言葉が通せずやう〳〵日本語に委しい鮮婢の通譯で言葉が通じて嬉しいやら悲しいやらの人情劇を演じたと云ふことは嘘のやうな事實である宋子の兩令孫は二人共

■成績が甲 で家庭でも學校でも懐しいそして可愛らしい子宗である氏家女史の話では朝鮮人と知りつゝも毎日一所に起臥して居ますと内地人とは少しも異りませんと云つて居た兎に角此傾向は今後共必ず益々増長して行く一方と見なければならぬが同時に朝鮮教育上研究す可き

■重大問題 であつて日鮮同化の上には此上もない喜しい現象であると教育專門家の話を叩いて見ると内鮮人混合教育は今の處何等の弊害を認めず寧ろ相方共勉強の刺戟になるからして適當に競爭心を善用して行けば好結果を齎すであらう學科の進度も別に内地人と甲乙はないが國語などは全く

■天才的で あつて是等は教化上唯一の便宜であると云ふことであつた

李完用伯令孫丙喜君（十一歳、日出學校第二學年）

●負傷せし呉俊陞 全癒覺束なし
左の臂は不具か

曩に突泉縣にて負傷せし呉俊陞は十九日奉天赤十字醫院に入院滿鐵病院醫師立會の上エッキス光線にて檢診せしに全癒は到底覺束無く臂は半ば其の用を失ふに至るべしと（奉天特電）

●饅頭の中毒に罹つて死す

京都府立小學校生徒は饅頭の中毒にかゝり赤痢患者疫痢患者三十二名を生じ中七名は死亡せり（大阪特電）

●兵士重傷を負ふ

二十日午後大阪野砲兵第四聯隊の火藥庫内にて空砲火藥爆發し作業中の兵士重傷を負へり（大阪特電）

●飛んだ復讐

楊州郡乭卓面栗岩里金龍起（二十）は同里の貝驪順といふ女が自分の妻姜姓女の鼻に腫物の跡あるを見て姜姓女は夫ある身なるに他の黴毒患者と私通した天罰なりなど虚言を弄して村人に吹聽したるを聞き大に怒り九月二十五日貝驪順を自宅に呼び來り麻繩を以て同女を後手に縛り上げ庭木に結び付け置き同女の顏に人糞を塗りつけたる不法事件は京城地方法院にて笞九十の處分となれり

●短慮から

開城郡松都面徳[illegible]元里金岐鎬（三）は妻の弟崔泰元一家の貧困を憫れみ大正四年舊六月中元一の實父崔寅芳を自宅に引取りて扶養し居れる內寅芳は同年舊八月中病沒したれば葬式佛事等一切の費用を全部支出して供養を營み自宅に祭壇を設けて靈を祀りゐたり然るに本年六月廿九日夕刻岐鎬の不在中泰元が泥醉して入り來り器物を破壞し祭壇を蹴飛ばす等狼藉を働き居れる處へ岐鎬が歸宅し其の亂暴を見るや一時憤激の餘り泰元を中庭に引摺り出し其の腹部を蹴りたるより泰元は急性腹膜炎を惹起し七月一日遂に死亡するに至りし一件は此程京城地方法院の公判に附せられたり

●合鍵携帶の賊

長崎市廣馬場町生れ京城明治町二丁目千歳舘に下宿中なりし洋服職工井上吉太郎（三七）は明治四十二年竊盜罪にて佐世保區裁判所にて懲役十年の處分を受けたるものなるが合鍵、庖丁、懐中電燈等を携帶し本年八月四日より九月二十五日迄に前後六回に亘り本町二丁目石橋某方外五箇所より現金衣類等多數を竊取して本町警察署に檢擧せられ京城地方法院にて懲役六年の處分となれり

●高女生徒の山登り

京城高等女學校にては廿一日遠足會を催す由なるが一二年生約三百五十名は午前七時三十分出發白岳山に三四年生及び講習科生の一部三百名は同七時出發北漢山に登攀すべし

菊の香草紙
井上氏の大輪（永樂）

◇櫻井町二丁目の舊日韓禪寺前、井上鯉一氏の庭には二百鉢に餘る厚物がある◇主人は暖かい秋の陽を浴びながら縁側に端坐して靜かに庭前の菊を眺めて御座る◇垣を隔てゝ向ふには風流な草葺屋根と瓦屋根が見ゐる◇『私が菊を培り初めたのは十年ばかり以前、此の四五年でやう〳〵見られるやうなものが出來ました◇今年は雨が多くて不出來ですが他所の成績は什麼ものですか

恁麼に出來あがつて見れば愉快なものですが春からの手入れはなか〳〵面倒なものでござへす◇雨催ひになれば納ひ、霜が降れば圍ひ相當な手數をかけるものですが花は此の天長節頃が見頭でございませう……』床には黄の大輪『永樂』が秋に奢つて咲きつくして居る◇主人の近作に曰く『一夜佳人酒筵に陪す、玉顔嬌語、笑ひ喈々、床頭馥郁たり千株の菊、初て識る花精夢に入つて來るを』◇また曰く『培養初めて成る花株鮮なり、黄紅紫白嬋娟を競ふ、小院の風色愈心爽かなり、默座秋に對せば人仙の若し』

從軍日記
（南滿洲演習に觀戰部にて）
勝村長城

□十六日 今日は久しぶりで晴れた、而し一行の從軍連何れも十二日以來の野宿生活で疲勞困憊其の極に達した、最初九人の從軍記者は其後ボツ〳〵落伍者が出た、最も落伍者と云つても全然倒れて終つた譯ではないが或は長春の旅舘から或は公主嶺の宿から隨時觀戰に來るのである、最後の五人迄殘つた内で今日は又、日日の矢橋君と滿新の八田川君とが夕刻から長春に落ち込んだ、殘つたのは京日の高橋君遼東新報の荒川君と自分ばかりとなつた而し此の連中さても行軍と睡眠不足で暇さへあれば草つ原の中でも道端でもお構ひなしにグツ〳〵寢込んで終ふといふ有樣だ、夕刻孟家屯驛に落ちついた宿舍は支那兵營の一部に定められたが巡警慘死の血痕が室内に斑々として居るのと

▲蠟燭の買出し の能きないのとで宿舍を逃げ出し孟家屯驛の待合室で夜を明かす事となつた今夜一晩だ、今夜一晩辛棒すればお終ひだ、と皆なの口から言ひ合せた樣に洩れる待合室のベンチは狹い上に鐵道部付や衛兵に占領せられ止むを得ず、土間へ毛布を敷いて、待合室のランプを下ろして原稿を書く、南京蟲に襲ひ來る、寢床が惡くて眠れぬなどと云ふのは飯が不味くて喰べられぬと同じく贅澤である、二坪ばかりの小驛の待合室へ十五六人も詰め込んで而も鉋屑を敷いた土間の上でも快よい眠を取る事が能きた

□十七日 晴、愈々今日は演習最終の日だ午前四時三十分孟家屯を發して長春城の攻撃を見る、今日は彈のありつたけを打ち盡すものと見ゑて砲聲は間斷なく聞ゆる、小銃の音は騷い野原の四方から同時に起つた地雷火（爆發）全線の突擊午後から觀兵式があつて遺憾なく我武威の國際境上に輝くを目前に見て何んとなく嬉し涙が催して來る、午後三時から師團長の宴會に招待され、午後七時から料亭八千代に於て從軍新聞記者の懇親會を開く、失敗談やら、慘い目に遭つた話やらで大笑ひ、陸軍から借りて居た演習地機密地圖を一纏めにして統監部に返納した此の地圖は借り入れの時に

▲嚴重なる宣誓 を行つた事とてそれだけ吾々を惱ました事一方ならず隨分あまり深く仕舞ひ過ぎて地圖が見ゑなく成つたなど、夜中に騷ぎ出す事毎晩のやうだ其の度毎に眠い眼を醒されたり一人の地圖が見ゑなくなつた爲めに皆な汽車に乘遲れたりなどもした

失敗談の第一號賞は滿日の矢橋君が演習第一日に支那馬を借り入れて意氣揚々馬上豁かに打たせ給ふまでは好かつたが小銃が一發鳴ると支那馬が急に跳り出して林と云はず川と云はず物の三町も飛び跳ねて乘馬將軍殿りには小半日も騷つて馬を曳いて演習地に戻つて來た（終）

秋山將軍（羅南演習觀戰）

●萬平炎來る

京城本町三丁目浄土宗開教院入口に於て萬平炎と云ふ看板を掲げ諸病治療の要求に應じ居るは慶長年間以來の名家として山下十二代目なりとのことなるが支那滿蒙等を巡歷し來り一般患者に施術し難治の病氣殊に胃腸病脚氣病子宮病の如きに効驗著しと云ふ最も進歩したる點炎術なりと

◇文士羊羹

◇例の光琳式看板の本町二丁目の青々園では道面『文士羊羹』といふのを賣出した◇製造元は山羊の御親類のやうな顔した山羊庵主人、羊羹が賣れたら文學をやりに露西亞に行くといふ大抱負おやげな◇そこで陳列窓をのぞいて見ると先づ看板に僞りなく『天下一品文士羊羹』は俳人烏堂の筆とあつて神代杉に胡粉の六朝體となか〳〵の凝り樣◇壁には神來の破墨山水をあしらひ下に虎耳の丹精になる嫁菜の鉢が据ゑられたり◇それからまた傍の短冊の數々には京城俳人の勢揃ひで先づ不老郎の『句案じつ練り〳〵し夜長し羊羹』といふのお次ぎには◇『菊には菊の句味羊羹に溺れり』これは遞信局の文七さん◇お隣りは例の大塊山人筆『文人羊羹みせに香れる菊の如』もあれば『羊羹の甘きを月に凝縛れり』靜軒もある◇また『澁茶の前ごぶ六の後』烏堂と『菊盛りの羊羹の味かな』日池『品菊に羊羹ひさぐ文士哉』虎耳などのもあるが肝腎の羊羹はと見れば側の籃胎漆器の四角な中に小豆色のがならんで居る◇お終ひに主人の青牛はなぜかゝぬと云へば看板の文句で御免を蒙つたといふ◇値段を訊けば『廉いとは言はぬが不廉くはない……』とどつちにしても同じことの御挨拶……

コレラ彙報

▲京城管内 十九日朝迄に於る京城管内虎疫患者累計七十九名にして内地人十二名朝鮮人六十七名也と

▲海州 十九日海州郡青龍面に十六日吐瀉患者鮮人二名發生一名は死亡生存者は疑似コレラと決定せり（海州特電）

▲防疫費寄附 高陽郡東幕にては既報の如く虎疫尚終熄せず京城憲兵分隊にては小山田隊長以下三十餘名の憲兵全力を擧げて防疫中なるが同地は資産家多き事とて發生以來防疫費として寄附せるもの次の如し
▲五十圓梁柱▲二十圓沈寅澤▲二百圓南允點▲五十圓金益洙▲百圓高濟翊▲百圓韓鵬熙▲百圓李容龍▲百圓金顯夔▲五十圓金炳哲▲百圓閔泳達▲五十圓梁桂漢▲三十圓朴弼熙▲二十圓高圭俊▲二十圓朴炳壽▲二十圓金洙▲十圓閔泳斗▲百圓沈宇澤以上合計一千百九十圓

物品拂下
一古制服類拾參點 當局龍山倉庫渡
右來ル拾壹月拾日競爭入札ニ依リ賣拂フヘシ詳細ハ拾月拾九日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルベシ
大正五年拾月二十日
朝鮮總督府鐵道局

一東大門公立小學校新築工事
此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ十以上
入札者ハ當學校組合區域內ニ於テ國稅、府稅及當學校組合費年額三拾圓以上ヲ納ムル者ニシテ二ケ年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル
右入札希望ノ者ハ當學校組合ニ就キ請負心得書、契約書案、仕樣書及現場等熟覽ノ上十月廿五日午前十一時限リ當學校組合ニ入札スヘシ即時開札ス
此契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充之ヲ擔任ス
大正五年十月廿一日
京城學校組合

貴金屬品は
洋風淡雅なる意匠巧緻妙なる工作玲瓏透明なる貴珠の光愛すべきルビー、エメラルド何れも上流貴婦人方の御要求を滿して遺憾なき逸品取揃へ居候
金側 腕卷時計 自二十三圓至五十五圓
銀とニツケル 腕卷時計 自四圓至二十圓
京城本町二丁目 村木時計舖

新刊書御案内

書名	著者	定價
◎謡曲大辭解全	木村、井上、本居、佐打	持二、八〇
◎古今日本軍記文選	市守 共著	持一、七〇
◎最新産業語彙及略語辭典	法雄	二、三〇
◎日本美術學講話	黒田鵬心	持一、八〇
◎初等幾何學講義	柳原吉次	二、五〇
◎相高等算術教本完	田邊、菅八、山内、石部 共著	七〇
◎難問解法三角法要義	松村定次郎	八〇
◎高等受驗參考化學要說	長伐	一、〇〇
◎獨習上達新作文	石崎篁園	七五
◎ニイチエ全集 人間的な餘りに人間的な 上巻	生田長江譯	一、六〇
◎日本脚本集	一高 安三郎	一、八〇
◎世界征服	樋口麗陽	八五
◎一喝	禪 南大和中原	九〇
◎禪窓閑話	菅原時保	九〇
◎英文學と天涯の孤客より	外國語學校 メドリー	四五
◎ポケット三體千字文	中村春堂	二八
◎銘曲筑前琵琶歌集	今村外園	三〇
◎モルガンお雪	上山光哉	三五
◎ペン數字練習帖	大阪屋號編	一〇
◎中學校女學校入學試驗豫備書	普通學講習會	四〇
◎朝鮮總督府巡査受驗提要	永野清	持四五

京城本町 電六八四 二〇八六 振替京城二六九七
大阪屋號書店

平壤栗卸
京城南大門外 池田商會
電話七五九 振替口座二四七番

開店滿十週年紀念 大景品附大賣出

■十月二十三日より同二十九日まで■
十週年間御引立の御愛顧に酬いんとする弊店の微意は賣出し期間中に於て十二分に發揮致します

特別 大景品目錄
一總桐簞笥 一本　一丸帶 一本　一蒔繪硯箱
一紫檀硯箱　一桑製角形火鉢　一吸物碗 二百人前
一重箱 數十組　一鐵瓶 數十個　一青銅卷煙草入
附屬菓子器　竹製手桶形花生　一煤竹製花籠
一切手盆 數十種　一上等ご主人底 信玄袋　一眞岡裏地 五十反
一紫檀卷煙草入 數十個
其他反物、雜品 數千點
（景品は御買上金高二圓毎に一個宛進呈 但し見切品釣切類には景品なし）
◎見切品と釣切類は弊店の獨特にて最も價値ある品を驚くべき廉價にて御求めに應じます
どし〳〵御來店下さい

京城明治町
唐川呉服店
電話二六一番

女鳩

渡邊默禪

(一三七) さかねぢ

遠州屋の親方が呆れて泥と見成つた時に、秀子は稍と氣を取直したと見えて、自分の手を執へてゐた若者をいきなり突飛すやうに振りはらひさま、蹶然と立揚つた。

『遠州屋ぢやないの、お前は』

激した聲は絹を裂くやうに顫ゐる。蒼白い顔面神經の極度に痙攣したなかから、剃刀のやうな眼の輝くのを月明りに見ると、凄いほどに殺氣立つてゐた。

『へね、左様で……お早やうございます。へね』遠州屋は慌てゝ天窓の捻鉢卷をとつて、逃げるやうに後退しながらぴよこ〳〵お辭儀をした。

『何がお早いのさ。まだ夜半ぢやないの。一體何の眞似だい、是は』

秀子はお孝を後に庇ふやうにしてぢり〳〵と前に詰寄つた。

『ね、別に……何でございます。その、何だといふもんですから、實は嘘い所を態々飛起きて何したんで』

『何したとは何だね』

『へね』

『隨分失禮な人ね、お前だちは……一體誰の許しを受けて、私の邸内に飛込んで來たんだね』

『ね、許しを受けたつてね譯ぢやございませんが、ど、ど、泥坊が入つたと聞いたもんですから……』

『その泥坊は何處に居るの』

『ど、何處ッて……何だか夢のやうな話なんで、へね』

『寢惚けちやいけないよ、遠州屋。お前だちこそ泥坊じみた眞似をしてゐるぢやないか。この夜深に戸締のしてある邸内へ承諾もなく飛込んで來て、私どもを手籠にするなんて、全然強盗だわ。强盗でないにしても立派な家宅侵入よ。覺ねといで、今に警察へ告訴をしてやるから』

『と、飛んでもない、そ、爾うお腹立ちやあ困ります。全く間違なんで、へね、全く欺がれたんで、へね、全く私どもの疎忽でございます。へね全く……おい、みんな、何だつて汪然突立てるんだ。笑ひなさんなよ戯談ぢやねね。お姬さまがお怒んなさるのも無理はねねやな。手前們が亂暴な所爲をするから不可ねねんだ何故顔を見てから手を出さねね。眼はあつても節穴同然、情ねね野郎だ第一この月夜に提灯を持つて來ねね奴があるかよ、泥坊なんてゐるものは灯が大嫌ひなもんだ、その嫌ひな灯を持つて來ないのが腑拔の親玉だ。男だか女だか一寸障つて見ると知れさうなもんぢやないか女なら何故優しく動はつて上げねのさ。ぞだい世間に女の土藏破なんてゐるものはあるもんぢやねね。それを有ると思ふのが既に大間違のべらぼうだ。さア濟まねえことは誰に言はせても、濟まねに極つてゐるから、みんな氣を揃へてお詫をしろよ。そら、號令で いけ、一二の三』『へねお姬さま、どうも濟みません、眞平御免なすつて へい』

餘りに意外だつたので言ふことは頗る滑稽だつた。默つて睨めつけてゐた秀子は

『すると誰かお前の家に呼びに行つたのかね、そんな事を言つて』

『へね、何と云ふ方ですかつひ四五日前御殿に上つた女中さんで』

『あゝ秋だよ』忠はずお孝と、顔を見合つた『よしッ、分りました。ぢやお前たちは最う用はないから引取つて下さい。何でもないんだから』

『へね、有難う存じます』

其時お秋は最う其場には居なかつた。遠州屋の連中は莫迦々々しさに張合拔がして、こそ〳〵歸らうとした出合頭、お秋に定紋のついた弓張提灯を持たせて家扶の鈴木老人がとぼ〳〵とやつて來た。

歯科診療 野田齒科醫院
本町二丁目三越向 電話一〇四七番
齒科醫學士 野田應治

内科 小兒科 婦人科 京城醫院 村上憲佑
本町二丁目油尾旅館前電話七四二番

定州より (日池兄に)

芳宙

國境近く進むに從ひ旅愁しく月を眺めて初冬の景色はもう充分に候汽車は目的地迄往かず已み得ず當地に下車し月夜を幸ひ城内を一見し更けて眺を往き商舘の『イロハ』旅館に投じ申候(十月九日)

四山晴らき凹地の空を渡る雁
旅館の二階にて
山腹の高樓や町は月に寢て
シグナルを霧笛の汽車の響き過ぐ
雁夜たゞ何に喚るともなき旅情
月に雁の喧しき旅も幾夜過ぐ
蒼解ぐす菊の吸ふ旭よき二階
郵便旗たゞ垂るゝ菌 臺の霧
望月郵便局長を訪ふ
林檎剝ぐ春風の如き君なりし

院長久敷歸省中の處今日歸院從前の通り診療仕り候
大正五年十月二十日
京城明治町二丁目
皮徽科 佐藤醫院 電話一一七三番

新刊紹介

▲朝鮮及滿洲(十月臨時號) 本號一日發行の第百十二號は發賣禁止の厄に會ひたるを以て同十五日臨時號として第百十二號を發行せり秋の滿洲(釋尾旭邦)支那に對する我邦の態度(後藤内相)滿鐵問題と支那論の統一(立花十九師團長)等[illegible]の日の京城『一把者』サキ黨と程のよい人『ロマラヤ山人』最近四十年間に於ける朝鮮政變史(細井肇太郎)京城人と新作(『酒田石泉』氏)

▲大日本新聞(三一五) 五錢東京市麴町區有樂町の四其社
▲國社新聞(一五六) 七錢東京市下谷區[illegible]師子王文庫
▲三ツワ文庫(十月號) 十錢東京市日本橋區播町四の一五其發行所
▲ゼ、ジャパン、タイムス、スチューデント、エヂション(六の五) 十二錢東京市麴町區内幸町一の四其社
▲ゼ、イングリッシ、タイムス(一の四) 十二錢東京市芝區南佐久間町一の一英語研究社
▲鑛業及鑛夫(四の四) 三錢東京府下千駄ヶ谷町七四三其社
▲經世(一〇四) 十三錢東京市芝區田村町六其社
▲嗜好(九の一〇) 六錢東京市京橋區銀座二の五明治屋
▲園樂虎之巻(四の一〇) 二十錢東京市芝區白金町三光町四六二吉の日本社
▲婦人週報(二の四二) 四錢五厘東京市牛込區市ヶ谷田町二の一七其社

◎東京三金靴店の特賣 今回東京芝區愛宕下町三金商靴店にては戰亂の影響にて各靴店の値上實行にも不拘同店は抱擁なる材料の持合せと薄利多賣主義にて値上せず爲に各地より多數の注文を受け日夜多忙を極めつゝあり因に希望者はハガキにて申込めば象見本附最新目錄を進呈する由

文官公吏試驗學科通信講義 文官公吏たらんとする受驗者の爲め必要なる試驗學科通信教義錄にして本月中旬第一期新學期開講目下會員募集中希望者には規則書を無料送附すと(東京市麴町區永田町二番地文官養成學會)

讀者の領分

▲京城も近頃段々藝人のいゝものが來ることゝなつて近く[illegible]は[illegible]とか市十郎とか乘込み其方面の熱心家の渴を醫したが只料金が高過ぎるを少し廉くして一般に見せるようにして欲しい(赤貧生)▲家賃がこゝ兩三年少しも下らぬのは甚だ不都合ならずや而かも修繕をせぬの家賃は前金のと喧しきもの多し何んとか制裁を加ふる法なきものに候や(八軒長屋)▲市民が唯一の遊場所である南山一帶の公園地が常に掃除不行屆なるは大に遺憾なるものあり市内の衛生施設と同樣今少し淸潔の方法を講せられんことを望む(質見生)▲展覽會のこと催しで賃行して下ださい(園藝家)▲散歩子君の投書にあつた本町通りの荷車制限は大賛成ですが僕は更に一歩を進めて本町通りのアノ狹い所で商店の前に大きな箱を積んだり荷車や自轉車を置いてあるのは甚だ不都合だと思ひます是等は早く其筋の御取締が願ひたいものです(贊成子)▲京城の側候所は北部の底地にあつて市民は毎日の氣象觀測を新聞の天氣豫報によつて見るより外に仕方がない何れに行つて見ても側候所は山の上と相場が定まつたものであるが京城のは移轉は出來ぬものか(晴雲計)▲燃ゆる樣な紅葉の枝を遠慮なく手折つて行く人を澤山見付けるが殺風景の連中が集つたものだ是から警官は見付次第片つ端から取調て風流刑にでも處してやると好い(一指王)▲又々雜貨屋の小僧が不正な事を始めた最う一度不意に調査して貰ひたい(米と酒)▲此頃醬油の押し賣をする商店があるから諸君注意し給へ(一斗樽)

我が政府の奬勵製品●製品は常に新しくて非常によい保證の出來る煉乳にはヒシ印商標あり
ヒ シ 印 ミ ル ク
大阪市 洋酒罐詰食料品問屋 祭原伊太郎

産前さんご後子宮病ちの道汁薬 登録商標
清婦湯
效能(内務省許可) 月經不調 子宮内膜炎 實質炎 こしけ 偏頭痛 惡阻 産前産後 逆上 頭痛 眩暈 ヒステリー 血の道 神經性心悸亢進
説明 月經調はず、子宮病、白血、長血、すべてこしけ産前、産後つわり、頭痛、眩暈、息切、動悸強く、手足しびれ下腹、手足の引きつり痛み、むくみ、足腰の冷え、耳鳴、涙出で、根氣薄く、心氣撓れだるく腰の張り、いたみ[illegible]等其他血の道の一切に効あり
一日分 七錢 三日分 廿金 一週間分 四十五錢
本舗 東京日本橋區元大坂町 高木與兵衛
取次販賣 京城 [illegible]

複方痲積湯
登録商標 せんきせんつう腰痛の良藥
定價 六錢 十八錢 四十錢
大阪市西區新町三丁目 本舗 田和知本三郎
代理店 京城 新井藥房

星印ノ一ンス
いづれの御家庭にてもツーンスは星印を御使用です
星印は品質及賣行に於てツーンスの界の明星なり
大阪市 發賣元 祭原伊太郎

賛化病院 京城本町二丁目 電話二四〇番
内科 小兒科 入院隨意 毎日五名を限り無料施療す
醫學博士 古城憲治
醫學士 上野亮藏

閑靜にして避暑避寒に宜し
溫陽溫泉

新刊圖書案内
書名 著者 定價
▲青年雄辯法 鹿川忠雄 一、〇〇
▲マドロスの悲哀 太刀雄 一、二〇
▲三角法要義 松村安太郎 八〇
▲和譯註解妙法蓮華經 伊藤[illegible] 一、二〇
▲帝國六法全書 有斐閣 一、七〇
▲最新普文受驗準備書判文集 養成會 六五
▲信用及擔保貸付論 深瀧宗助 一、二〇
▲西洋中毒 遠藤吉三郎 一、二〇
▲戰後の經濟政策 服部文四郎 八五
◎イソップ物語 桶山正雄 三二〇
◎日本債權法總論 鳩山秀夫 一、八〇
◎高等文官試驗問題集 銀松堂 六五
◎刑事訴訟法論 林賴三郎 三、二〇
◎飮食療法と其實効 高原立太郎 六〇
◎日華實用會話集 張上洋特 一、〇〇
◎朝鮮語學捷徑 佐藤瑛堂 五〇
◎朝鮮古蹟圖譜 總督府 一、五〇
◎民事訴訟法原論 岩田一郎 四、五〇
◎法律學說判例要旨類集 第四卷 五、〇〇
京城本町二 電話一一六六番 振替京城二四五四番 日韓書房 第二京城店 仁川店

瀬戸醫院 外科 皮膚科
旭町二丁目(舊三丁目)
醫學士 瀬戸潔
診察夜九時まで
(電話二四九八番)

京日案内
普通 一回前金一行(十五字詰) 三十錢 一番外 六十錢
▲申込後中止取消の節は前金返戻せず

普通

ハキモノ 商に經驗ある廿歲位迄の者至急入用 仁川宮町 いせ德履物店 564
◎石鹼製造法習ひたし 無給にてよし食費其他は御相談致したし保證人あり御報參上(姓名在社) 565
◎金融 月收の御方へ極秘信用融通 便宜立替御報又御來宅 大和町三ノ三二(柄澤前)起木屋 554
古本なら野村 明治町筋電二六三六 野村書店 431
◎古本 高價買入 京城本町三丁目 東京堂書店 446
姙婦産婦預所(規則申込次第送呈) ○京城産婆院○ 京城南山町二の三五 電取次 一三三九 483
店員入用 年齡二十歲迄 本人來談あれ 京城旭町一 月桂園茶舖 544
▲廿五歲以上の外交家(監督員外交員)採用 希望者履歴書携帶午前中來談 京城本町二ノ一〇六 大正生命支部 557
◎見習生入用 十四歲以上十八歲迄 高等小學校卒業程度希望者來談あれ 京城三坂通 下川堂寫眞舘 556
◎本舖讓渡したし 養蠶に有利なる數年來の營業居抜き儀至急讓り渡したし 櫻井町に於て 556
◎囑託外事員募集 永樂町二 吳孤兒院京城支店 551

番外

恩給年金 短期無保險 月利一歩二厘五毛 立替 即時現金 京城南大門外(舊御成町) 山口屋 567
代診生一名入用 但し經驗ある者 志望者は本人來談あれ(姓名仁川支局) 568

勸業債劵買入 外交員至急募集 京城太平通二丁目(電話二三三番) 商業銀行債劵部(振替京城五番) 563

◎有給外務員採用 日鮮人(二十五歲以上) 東京國債(明治町一丁目) 562

拾得物公告 一金四拾九圓十九錢外一點 右は十月十四日永樂町一丁目にて拾得届出あり心當の者は申出らるべし ▲京城本町警察署 553

鮮人豫約募集 地方事務員監督人 用志願者は履歴書携帶本人來談あれ 京城黃金町三丁目 朝鮮研究會 558

◎京城春川間自動車 毎日午前八時出發 片道四圓 賃金 ◎南大門通一丁目 廣橋自動車組 電話二一九番 主務 428

わたふとん類 並に 極力安く賣ります 京城若草町湯屋隣り ヒロセ 533

恩給年金 立替 月利壹分即金 確實拼引なし秘密嚴守 京城若草町通 中央郵便ポスト前 西村商會 497

恩給年金 立替 即時取引退隱料一切 利子年一割 京城櫻井町(大正館向) 元祖 博多屋 本店 515

骨つぎ うちみ くじき 仁壽堂 明治町佛國教會前 電話五九五
ちゝ 専門 治療 産婆 荒川元子 542

各種 鑛物分析 京城太平通二の二三〇 元朝陽分析所 電話二八三三 松永分析所 566

恩給年金受領の方へ 立替資金 並に公債債劵賣買 仁川山手町六四通 仁川葬儀社内 會田 453

▲縄叺莚 荷造用品販賣 京城岡崎町 渡邊商店 電話一四五三 振替京城八二〇 471

産婆 マッサージ 京城南山町三丁目一八 三浦小糸 電話一四四〇番 543

詐僞横行 僞萬年筆行商人 右者當店の名儀を詐稱し各地を横行 御注意相成度 パイン萬年筆 京城旭町二ノ六 東京楠松出張所 545

日本郵船仁川出帆
○大連、天津、牛莊行
相模丸 十一月九日 正午出帆
高砂丸 十一月三十日 正午出帆
三河丸 十月三十日 正午出帆
電話 仁川海岸町十一番 堀回漕部

尼崎汽船仁川出帆
○君が代丸 十月二十六日後四時 大阪直行
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
有田丸 十月二十八日 後四時出帆
大代丸 十月二十四日 後四時出帆
神吉丸 十月二十二日 後四時出帆
秀吉丸
電話五十九番 仁川海岸通 杉商回漕部

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 立神丸 十月廿一日 後五時出帆
小倉丸 十月廿四日 後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 山城丸 十一月二日 後六時出帆
小倉丸 十一月 日 後四時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 立神丸 十月 日 後四時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 十月廿八日 後六時出帆
○門司、第三琴平丸 十一月一日
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 天眞丸 毎月二日、十四日、廿六日 午後十時出帆
釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

大阪商船仁川出帆
○外航路所屬汽船の時間は五分刻なり以て連絡切符發賣仕候
○江原丸 十月 日 仁川發 青島、大連、芝罘行
○麗水丸 十月廿一日 仁川發 鎭南浦、大連、芝罘行
○晋州丸 十月廿一日 仁川發
○全南丸 十月 日 仁川發
○咸陽丸 毎日午前 仁川發 江華島、喬桐島、海州行
群山、木浦、釜山、關門、神阪行 天草丸 十月 日
安東丸 十月廿七日
漳州丸 十月廿四日 後五時出
信濃川丸 十一月七日 後二時出 木浦、釜山、嚴原、鄉の浦、長崎行
群山、釜山、横濱行 信濃川丸 十一月廿一日
潮州丸 十月三日 後二時出
福州丸 十月廿四日
木浦、關門、神戸、大阪行 薩摩丸 十月 日 後二時出
釜山、横濱行 福州丸 十月 日 正午出帆
鎭南浦、大連行 信濃川丸 十一月廿日 後二時出
大連直行 潮州丸 十月廿八日
鎭南浦、龍岩浦、安東縣行 福州丸 十月廿六日 正午出帆
日米丸 十月廿六日 正午出帆
淸津、浦潮行(元山出帆) 印、城津西、津ニ寄港浦潮不寄港 安平丸 十一月廿一日 後二時出
宮島丸 十一月廿六日
上海、基隆、打狗行(大連出帆) 基隆丸 十一月廿九日 後四時出
湖北丸 十一月十三日 前六時出
御注意 ◎朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道會社との連絡切符發賣仕候
大阪商船 仁川支店 電話 二三番二〇番五〇番
京城切符發賣所 内國通運會社支店 電話七〇八番

朝鮮郵船仁川出帆
本社 電話長一九五二番三二番
京城南大門驛前 松原運送店(電話長一七〇番)
○全羅丸 十月廿八日 釜山發
○京畿丸 十月 日
○黃海丸 十一月二日
○咸鏡丸 十一月二日 門司より釜山各港經由
○穩城丸 十月 日 元山發
○昌平丸 十月廿七日
○鏡城丸 十月廿四日
○第二鎭海丸 十月 日 元山發
○忠清丸 十一月一日
○平壤丸 十一月廿七日
○咸興丸 十月二十日 釜山發
○江陵丸 毎日 釜山發 浦項
○襄陽丸
○三浦丸 十月 日 釜山發
○統營丸 ○濟州丸 ○慶尙丸 毎日 釜山發
○順天丸 三日目毎ニ 木浦發
○慶興丸 十月 日 木浦發
○慶興丸 十月廿二日 木浦發
○公州丸 十月 日 木浦發
○宗信丸 十月十七日 仁川發
○江原丸 十月 日 仁川發
○麗水丸 ○晋州丸 十月廿一日 仁川發

阿波共同汽船仁川出帆
芝罘、大連行 第十二共同丸 十月廿二日 正午出帆
神戸直航 十月廿四日後四時入
朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡取扱仕候
阿波共同汽船株式會社
本町四丁目(電話一七三番) 野口商會
仁川代理店
元山代理店 春日町(電話二四七番) 田口回漕部
京城取次店 南大門(電話二六八・二〇一七) 河村運送店

成身院の法要 旭町二丁目眞言宗 成身院に於て二十日午後七時より